

※一部、台本と音声に違いがある箇所があります。
ご了承ください。

【左…アイシャ

中央…セラ

右…ジスニア】

※ジスニアのみ旧ラフです※



-NTR 共通台本-

cha0041 アイシヤ

「あ、あく。テストス。マイクチェック完了。では……」

cha0042 アイシヤ

「本製品をご購入いただき、誠にありがとうございます」

cha0043 アイシヤ

「この作品は……確かな幸せが、表面上は続いていく。でもその裏で実は、女の子たちが寝取られている……というコンセプトで制作されています」

cha0044 アイシヤ

「だからまず、とても幸せな日常を楽しんでいただきます」

cha0045 アイシヤ

「なお幸せパートでは、後に大切な人たちを寝取られてしまう男性のボイスも収録されているので、より深く背徳感と幸福感を得られることでしょう」

cha0046 アイシヤ

「その上であなた様には、濃厚なエロスをお届けします」

cha0047 アイシヤ

「うふふ、エッチなシーンが始まるまで、ズボンとパンツは履いたまままでお願いします
ね」

cha0048 アイシヤ

「それでは、物語をお楽しみ下さい」

≡ ▼ G0001 プロポーズを受けるセラ

【収録メモ】とある日の事後で、随とされる直前の吐息です。ちょっと苦しげです。

cha0038 ジスニア 「はあ……はあ……はあ……ん、はあ……」

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0039 ジスニア (M) 「どうして、こんなことになったのか。朦朧とした意識の中で何度も思考を巡らせる

が、答えなんて見つかるはずもなかった」

cha0040 ジスニア (M) 「今まで覚えたことのない快楽に、私は抵抗し続けた。逃げてでも逃げてでも追ってくる快

楽に……」

cha0041 ジスニア (M) 「ああ、でも……もう、逃げ場を失ってしまったみたい」

cha0042 ジスニア (M) 「私は、あなたに従います。ご主人様——」

≡ 音声編集時、ここに間を入れる。

【収録メモ】タイトルコールにもなるので、重みを持たせて下さい。

cha0043 ジスニア 「幸せの裏で、私たちは寝取られる……」

≡ 音声編集時、ここに間を入れる。

【収録メモ】次の文章のみ、モノログでお願いします。

cha0001 ウィル (M) 「俺ウィル・ターナーは今日、幼馴染のセラに、一世一代の告白をする」

≡ 音声編集時、ここに間を入れて下さい。

cha0034 セラ 「お邪魔します。こんな遅い時間にウィルの家に来るの、初めてな気がするわね。……

あれ、アイシヤはいないの？」

cha0002 ウイル

「姉さんには、外出してもらってる」

cha0035 セラ

「え、どうして……？」

cha0003 ウイル

「セラと二人っきりで話をしたいからだ」

cha0036 セラ

「っ……そ、そうなの……？ ……話って、何かしら……？」

cha0004 ウイル

「子供の頃にした約束、覚えてるか？ 大人になっても、お互い好きな気持ちが変わらないままだったら……結婚しようって約束」

cha0037 セラ

「……忘れたことなんてないわよ……ずっと、気持ちは変わらないわ。……ウイルスは？」

cha0005 ウイル

「……俺の気持ちは、変わった」

cha0038 セラ

「えっ……！？」

cha0006 ウイル

「あの時以上に、セラのことが好きになった。だから……結婚してほしい、セラ」

(ウイルスに抱き着くセラ)

cha0039 セラ

「……っ！ ウイル！ ばかあつ、心臓に悪いプロポーズしないでよっ！」

cha0007 ウイル

「一生に一度のことだから。……かっこつけたかったんだ」

cha0040 セラ

「ほんつとにバカ……。ずっと待ってたんだからね」

cha0054 アイシヤ

「お待ちせう。いちさうのお通りよ」

cha0047 ヤリ

「うわあ……！ すく豪勢ね……これもおいしそう〜」

cha0012 ウイル

「そうなんだよ、全部旨かったぞ」

cha0050 ジスニア

「ウイルス……つまみ食いしたんですね……？」

cha0013 ウイル

「ぎくうー？ ほ、ほら、はやく食べようぜ！ せっかく姉さんとジスニアが作ってき
てくれたんだからさー」

cha0048 セラ

「もう、ウイルスったらほんっと食い意地張ってるんだから……」

cha0055 アイシヤ

「はいはい、じゃあお祝い開始ね。ウイルス、セラ、おめでと〜う。二人の未来に
幸あれ〜……」

cha0051 ジスニア

「おめでと〜ういれ〜ます……」

cha0049 ヤリ

「ありがと〜う……」

cha0014 ウイル

「ありがと〜う……」

≡拍手 SE

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0015 ウィル (NM) 「ここは、とある山の中腹に作られた町、サンクトル」

cha0016 ウィル (NM) 「郊外に居を構えた山賊との小競り合いが絶えなかったが、戦士団とそれを率いる団長セラの活躍によって、山賊はこの地を去った」

cha0017 ウィル (NM) 「セラの傍には、弓の達人である副官ジスニア、そして俺の姉さんで回復魔法の使い手アイシヤがついていた」

cha0018 ウィル (NM) 「長く求められていた安息が、ようやく訪れた。今宵は町全体で宴が開かれ、戦士団の功績を讃えるのだった——」

【収録メモ】以上、モノログ終了。

cha0056 アイシヤ 「かんぱい。……んく、んく……ぶはあ」

cha0052 ジスニア 「アイシヤ、飲みすぎじゃないですか……?」

cha0057 アイシヤ 「何言ってるのよお。せっかくの宴なのよ。ジスニアもほら、なんなら一生分飲んでおきなよ〜」

cha0053 ジスニア 「私は、お酒は苦手なの〜——」

cha0058 アイシヤ 「大丈夫大丈夫、ほらあ」

cha0054 ジスニア

「ん、んくっ、んぐううっ……」

cha0059 アイシヤ

「ん、いいのみつぷりね〜♪ がんがいきましょう！ そうだ、他のみんなにも飲ませにいきましょうか。ほら、ジスニアもついてきて〜？」

cha0055 ジスニア

「えっ……あっ……私、ふひふひしてしまいます……わ、わ……待ってくださいますか、アイシヤあ……」

cha0019 ウイル

「姉さん……、絡み酒なんて珍しいなあ」

cha0050 セラ

「ジスニア、あのままだと間違いなくぶっ倒れちゃう……。アイシヤったら、かなり浮かれちゃってるわね」

cha0020 ウイル

「町みんなも嬉しそうだ。待ち望んだ平和が、やっと手に入ったもんな。ジスニアが敵に捕まってしまった時はどうなるかと思っただけ」

cha0051 セラ

「……山賊のリーダーが、話のわかるやつでよかったわ」

cha0021 ウイル

「セラが話を付けてくれたもんな。ジスニアも無事で本当によかった……。もう、山賊に怯えることもない。本当にぐううなま、セラ」

cha0052 セラ

「っっ！ 私だけの力じゃないわ。ジスニアもアイシヤも、そして他の戦士たちも……みんながいてくれたから成し遂げることができたのよ」

cha0022 ウイル

「謙虚だなあ……まあ、そこがセラのいいところなんだけど。……しばらくはゆっくりにできるっか？」

cha0053 セラ 「戦士団としての日々の仕事や鍛錬は怠ってはいけないけど、そうね、以前よりは落ち着くと思うわ」

cha0023 ウィル 「これからは、夫婦としての生活も始まる。……子供も欲しいな」

cha0054 セラ 「や、やだ……はうう、もう子供の話なんて……！ まだ先の話だわ。だって、私たち、まだ、その、キスしかしてないのに……」

cha0024 ウィル 「え、子供ってキスしたらできるんだぜ、知らないのか？」

cha0055 セラ 「ばか！ さすがの私でも騙されないわよ！」

cha0025 ウィル 「あはは。……俺の一生をかけて、セラのことを守る。世界一幸せな家庭をつくらう」

cha0056 セラ 「ウィル……。嬉しい……。けど、恥ずかしいじゃない……。もおお！ こうなりや飲んで、恥ずかしさをぐまかすしかつ……。んぐっ、んぐっ……！」

cha0026 ウィル 「お、おい、セラ！ お前、めちゃくちゃ酒弱いのにそんなに飲んだらっ！」

cha0057 セラ 「んぷはあっ……。私は、弱くない！ 強いらよ！ 酔わらいもん！」

cha0027 ウィル 「いや、もう酔ってるじゃねえか！ はええよー！」

cha0058 セラ 「なによおっ！ のんじやらめって言うのおー？ アイシヤも言ってたじやらいの……。今日は真夏のよー！ ……ウィル……。ウィルうう……。ひぐっ……。ひっ、ふええ……」

【修正】 ウイルの台詞

cha0059 セラ

「あちやう。始まったよ泣き上戸が……」

cha0060 セラ

「私、ほんとに、ずっとウイルスのお嫁さんになるのが夢で……ぐすっぐすつ。だから、こうして町が平和になって、それで、やっと、あなたのお嫁さんになれるんだって」

cha0061 セラ

「そしたら、嬉しすぎて、夢みたいで……ウイルスううう！ ぐすぐすつ、えぐぐ……」

cha0028 ウイル

「セラ……。俺も嬉しいよ……よおーよしよしよし……」

cha0062 セラ

「ん、にやあふうふうくん……ウイルスうう……だいすぎ、らーん……ずびうつと……ずびうつと……んんむう……すう、すう……むにやあ……」

cha0029 ウイル

「ん……セラ、セラ？」

cha0063 セラ

「へーびびびびび……すびい……」

cha0060 マイシヤ

「あらー、セラも寝ちゃったのね」

cha0056 ジスニア

「すううう……もお……わらしは……のめらいれす……へううう……すびい」

cha0061 アイシヤ

「さすが団長と副官ね。お酒の席でも連携ばっちりじゃない。私はジスニアを家に送っていくわ。ウイルスはセラを送ってあげなさいな。ほら、ジスニア、行くわよ」

cha0057 ジスニア

「ん……んあぁ……」

cha0030 ウイル

「よし、俺たちも行くか。よいっしょつと、セラ、しっかりつかまってるよ」

cha0064 セラ

「んん……むにゃあああ………」

ニ編集時に少し間を入れる。

cha0031 ウイル

「セラ、セラ、家に着いたぞ」

cha0065 セラ

「んむう〜……むにゃ……むにゃにゃ……」

cha0032 ウイル

「ベッドに寝かすからな、よいっしょ……っと。セラ、ゆっくりおやすみ」

cha0066 セラ

「やあああ〜、帰っちゃいや……ウイルス……一緒にねんねしよ……んうう〜……絶対離さないからねえ……」

cha0033 ウイル

「お、おいセラ？ まいったな……。しゃあない、今日はそのまま泊ってか」

cha0067 セラ

「すうすう……ウイルスう。むにゃあ、ぎゅって、して……？ んう〜……んう〜……すすすい……ウイルス、好きい、んん……すう」

cha0034 ウイル

「うたぐ……我慢する俺の身にもなってくれよ……」

(朝、ウィルが目を覚ますと台所にセラが立っている)

cha0035 ウィル 「ふああああくあ……。ん、何してんだ？ セラ」

cha0036 セラ 「あ……。おはよう、ウィル。んつと……。家まで送ってもらっちゃったお詫びを兼ねて…

…朝ごはん作ってるのよ」

cha0036 ウィル 「へええ……。！ セラの手料理なんて初めてだな。楽しみだよ」

cha0039 セラ 「えへへ、そんなに喜んでもらえるなんて……。はい、どうぞ、召し上がれ！」

【収録メモ】いったただきまの後は独り言っぽくぶつぶつと早口でお願いします。

cha0037 ウィル 「いったただきま——っ！？ な、なんだこの皿に盛られた謎の物質達は、黒々としたオーラを発していて、まさにこれはそうだ、ダークマターの化身なのではないか！？」

cha0070 セラ 「どうしたの？ 遠慮せず食べていいのよ」

cha0038 ウィル 「……セラ、これは、なんていう料理なんだ？」

cha0071 セラ 「料理名は特にないんだけど、あえて名前を付けるとしたら……。バーニング・エッグ・カーニバル、なんて感じかしら？ えっへへ」

cha0039 ウィル 「……念のため聞くけど、味見はしたんだよね？」

cha0077 セラ 「んぐぷう……くはっ……これは、魔物よ！……！！！！んんうううっ魔物め、私が退治してやるわ、覚悟おおおおおお！！……！！」

cha0044 ウィル 「待て落ち着けセラ！！これはたしかに魔物の側面は持ち合わせているかもしれないが、まじうことなきお前の作り出したバーニング・エッグ・カーニバルだ！！……！！」

cha0045 ウィル 「一応、料理というくくりになっている……冷静になれ……」

cha0078 セラ 「はっ……！？私が作った、料理……？そう、だったわ」

cha0046 ウィル 「よかった……戻ってこれたな、セラ」

cha0079 セラ 「はああ……ありがとう、ウィル……あなたのおかげで正気になれたわね」

cha0047 ウィル 「いいんだ、いいんだぞ……よし、これは、残念だけど……ほんとの意味でバーニングしような」

cha0080 セラ 「うん……」

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0048 ウィル (NM) 「これからは、かならず味見をさせようと言った……というか、料理は俺が担当しよう
と心に誓った」

cha0049 ウィル (NM) 「こうして、俺が作り直した朝飯を食べた後は、セラは早々と戦士団の元へ向かっていった」

cha0050 ウィル (M) 「平和な日常になったとは言え、これからもいつ何が起るかはわからない。不測の事態に備えて、戦士団は今でも鍛錬を欠かさず続けている」

cha0051 ウィル (M) 「鍛冶士として、戦士団のためにこしらえた武具を持って演習場に訪れると、そこでは訓練の音が響き渡っていた」

「収録メモ」以上、モノローグ終了です。

○cha0081 セラ 「そこ、反応が悪いっ！ 陣形が乱れているぞ！ 前衛、敵に直進せよ！ アイシヤは、防御魔法を！」

cha0062 アイシヤ 「はいはい。みなさんに神のご加護を、それっ」

cha0082 セラ 「ありがとう、アイシヤ。ジスニアの方は……？ うん、うまく動いているようね」

cha0058 ジスニア 「弓兵隊、十分ひきつけてから弓を引け！ 合図は私がする！ 3、2、1……放てっー」

cha0083 セラ 「よしっ！ 一気に畳み掛けるぞ！ 全軍前進っ……！」

cha0063 アイシヤ 「うーん、仮想とはいえ敵をなぎ倒すこの感じ、気持ちいいわね」

○cha0084 セラ 「……ふう……！ みんな、お疲れ様。すごく良い連携だったわ。今日の鍛錬はこまめにしましょう。……あ、ウィル！」

cha0052 ウィル 「お疲れ様。新しい武具を持ってきたぜ」

cha0085 セラ 「待ってました！ ありがとうございます、ウイル」

cha0053 ウイル 「いや、今日の鍛錬の調子も良さそうだったな」

cha0086 セラ 「先の山賊との戦いで欠けてしまった人もいるけど……みんなよく頑張ってくれてるわ」

cha0059 ジスニア 「ただいま戻りました。あら、ウイル来てたんですね」

cha0054 ウイル 「おう、ジスニアの弓も直しておいたぞ、ほら」

cha0060 ジスニア 「ありがとうございます。……綺麗に直っていますね。さすがウイルです。少し試し打ちしてみてもいいですか？」

cha0055 ウイル 「もちろんだ」

cha0061 ジスニア 「はい、では……。はっ！」

(ジスニア、遠く離れた的を射る)

cha0062 ジスニア 「うん、手によく馴染みます。やはり弓の手入れはウイルに任せるのが一番ですね」

cha0056 ウイル 「ジスニア……あいかわらずすげえな……あんなに遠く離れた的でも、即座に狙えるなんて」

cha0063 ジスニア 「そんな、これは鍛錬の賜物です。練習をすれば誰でもできるようになります。それに、ウイルが手をかけた弓だからこそできることですよ」

cha0087 セラ 「とは言っても、ここまでの腕前を持ち合わせている弓兵は、戦士団の中でもあなただけなんだからね」

cha0064 マイシヤ 「改めて間近でその流れるような動作を見ると、ほんと関心しちゃうわ」

cha0064 ジスニア 「な、何を言うんですか……。っ。だから、私の実力じゃなくて、ウィルのおかげですってばっ」

cha0065 マイシヤ 「あらあら、ジスニアったら顔が真っ赤じゃない。ジスニア、もっと自分のことを褒めてあげなきゃダメよっ？」

cha0088 セラ 「謙虚で控えめなところが、ジスニアのいいところでもあるんだけどね」

cha0065 ジスニア 「わ、私のことはなっておきっ！ も、もうお昼ですよ！ 市場に出かけるんですよ？」

cha0066 マイシヤ 「行きましょ行きましょ。ウィルも来るっ？」

cha0057 ウィル 「うん、ちょうど、俺も腹ペコだったんだ」

cha0089 セラ 「じゃあ隊のみんなに、今日の総評と挨拶をしてくるから、先に行ってくれろ？」

cha0058 ウィル 「いや、待ってるよ」

cha0090 セラ 「ウィル、お腹すいてるんでしょ？ 先に行って食べてればいいじゃない」

cha0059 ウイル 「そこまですらえ性がないわけじゃないよ。セラと一緒に行きたいさ」

cha0091 セラ 「っ……ウイル」

cha0067 アイシヤ 「*うふふ*、*うううう*でもラブラブなんだから」

cha0066 ジスニア 「ほんと、うらやましい限りです」

cha0092 セラ 「やだっ……からかわないでっ……！　くんうう……！　じゃ、じゃあウイル！　せつかくだからみんなに直接武器を渡してあげればいいじゃないのー？」

(セラがウイルの腕を掴み、ひっぱっていく)

cha0060 ウイル 「それはいいけどっ、うおおっ！　お、おい、セラっ、ひっぱるなって！　待ってくれよおお……！」

cha0068 アイシヤ 「ウイル……まぢがいなくセラのお尻に敷かれるわねえ」

cha0067 ジスニア 「そうですね……私もそう思います」

≡ 音声編集時の間＋市場らしいわいわいやいのやいのS E

cha0093 セラ 「昼時だからかしら。予想よりも人が多いわね」

cha0069 アイシヤ 「長らく店じまいしてた人も、張り切って商売してるわ」

cha0061 ウイル 「それもこれも、セラ達たちが山賊を追い払ってくれたからだな」

cha0068 ジスニア

「私たちは、自分たちの役目を果たしたまでですよ。そうですね、セラ」

cha0094 セラ

「そう、それが私たち戦士団だもの。わあ、このチーズが乗ってるパン、焼きたてで美味しそうね、一つ頂けるかしら？」

○cha0095 セラ

「んむんむ。うわあ、おいしい……！ ほら、ウィル、あくん」

cha0070 マイシヤ

「あら、じゃあ私はこのソーセージが入ったのをいただくかしら。……もぐもぐ。うん、ジューシー」

cha0069 ジスニア

「ん……私は、どれにしようか悩みますね」

cha0071 マイシヤ

「ジスニア、これ一緒に食べましょう。はい、あくん」

cha0070 ジスニア

「なっ……自分で食べられますよー！」

cha0072 マイシヤ

「いいからいいから〜ウィルの面倒はセラが見ちゃってるから……。ジスニアを妹のよううに面倒見てあげようと思って。ほら、あくんして〜」

cha0071 ジスニア

「そ、そうですか……。なんかわかるようなわからないような……。ん、では、あくん……んむもぐ……うん……おいしいです」

cha0062 ウィル

「ソーセージか……。旨そうだなあ……。セラ、俺たちも食おうぜ」

cha0096 セラ

「ウィルもアイシヤも、ほんとにお肉好きよね。やっぱりそこは姉弟だわ」

cha0073 アイシヤ

「あら、お肉が好きじゃない人なんていないんじゃない？」

cha0072 ジスニア

「好みはそれぞれじゃないでしょうか？ 私は果物や野菜の方が好きですよ」

cha0074 アイシヤ

「今さっき美味しそうにソーセイジ食べてたじゃない？」

cha0073 ジスニア

「ま、まあ……たまにはいいものだと思いますけどね」

cha0097 セラ

「そっか……お肉ねえ。お肉料理ならただ焼くだけだし失敗もなさそうだから……。ウイ
ル、今度の料理は任せておいてね」

cha0063 ウイル

「っ！？ あ、ああ……はははははは……。あ！？ あそこ、おいしそうな、なんか
すげえ肉が入ったやつがあるぞ！！ あれ、なんだああ？！ 気になるなああ！？」

cha0075 アイシヤ

「あら、ほんと。私もあれ食べてみたいわ。ねえ、ウイルス買って。一緒に食べまし
よ」

cha0064 ウイル

「おし、まかせろっ」

cha0076 アイシヤ

「やった、うふふ。楽しみだわ」

cha0065 ウイル

「あっっ、あっっ、熱いなこれっ！ ……ほら、姉ちゃん。先食っていいぞ」

cha0077 アイシヤ

「ありがとうございます。おいしそうねえ、いただきます。……んあむ……んむ、んむ、んんうう
っ……最高！」

cha0078 アイシヤ 「うふふ、お姉ちゃんのためにこんなおいしい食べ物見つけて買ってきてくれるなんて。ほんっとに良い弟を持って幸せだなく。大好きよ。なでなで……」

cha0098 セラ 「むむむむむっ……!?!」

cha0066 ウイル 「やめるよ、恥ずかしいだろ……もうそんな歳じゃねえっての」

cha0079 マイシヤ 「私にとってはずっとかわいい弟だから。よろしよしよし……」

cha0099 セラ 「もおおおっ! それ以上ベタベタしないでっ! ウイル、こっち来て! 行くわよー」

cha0067 ウイル 「うおっ……なんだセラ!? いてててっ! お前、今日ひっぱるの多いぞ!? おい、どこに連れていく気だ!?!」

cha0100 セラ 「家よー」

【収録メモ】遠ざかっていくようにお願いします。

cha0068 ウイル 「家!? わかった、わかったから、ひっぱるなって……! おーい!」

cha0080 アイシヤ 「あらまあ、行っちゃった。どうしたのかしらね、セラったら」

○cha0074 シスニア 「アイシヤ……わかっているでしょう」

cha0081 アイシヤ 「んふふ、まさか実の姉にまでヤキモチ妬いちやうなんて思わないじゃない?」

cha0075 ジスニア 「俗に言うマリッジブルーとやらで、精神が不安定になっているのかもしれませんが。幸せというのは時に怖いもの……らしいので」

cha0082 アイシヤ 「ぶくん、詳しいのね、ジスニア」

cha0076 ジスニア 「い、いえ、とある本で読みました……」

cha0083 アイシヤ 「そういえば、ジスニアって前にウィルのこと好きだったわよね？ あの二人の結婚、正直どう思ったの？」

cha0077 ジスニア 「ええ……そんなこともありましたね。今はもう未練はありませんよ。二人の幸せを純粹に祈っています」

cha0084 アイシヤ 「そっかそっかあ……。大丈夫よ、ジスニアにもいい人が絶対に見つかるから」

cha0078 ジスニア 「それは……。そういうアイシヤはどうなんですか？ 浮いた話をまったく聞いたことがありませんけど」

cha0085 アイシヤ 「私ねえ……。実は恋愛ってしたことないの。ぶっちゃん興味がないのよね」

cha0079 ジスニア 「そうでしたか……。アイシヤに心奪われる男性は多いみたいですけどね」

cha0086 アイシヤ 「そうなの？ 男の人ってよくわからないわ。まあ、いいよ。とにかく周りの人たちを幸せであれば、私は満足だから」

cha0087 アイシヤ 「それはもちろん……。ジスニア。あなただって含まれてるのよ」

cha0080 ジスニア

「……ありがとうございます」

cha0088 アイシヤ

「さあ、せっかくだからもう少し見て回りましょう？ 私まだまだ食べたいわ。セラはウイルに任せて大丈夫だと思うし」

cha0081 ジスニア

「そうですね。この活気を、もっと堪能しましょう」

ニ 音声編集時に間を空ける

cha0089 ウイル

「セラ、お茶入れたぞ。なあ、頼むよ。機嫌直してくれ、な？」

cha0101 セラ

「……………ごめん、ね。実のお姉さんのアイシヤにヤキモチ妬くなんて。私どうかしてるわよね」

cha0102 セラ

「でも、自分でもどうしていいかわからないモヤモヤした気持ちだが、出てくるようになっちゃったのよ。ウイルを誰にも渡したくないって思ってしまう」

cha0103 セラ

「子供みたい、だわ。こんな自分、すごく嫌……………うう」

cha0070 ウイル

「姉さんとは言え、女性と距離が近いってのはセラにとっては複雑なことだよな。俺こそ、気が遣えなくてごめんな」

cha0104 セラ

「ウイルが謝ることないわよ！ 私……………ほんと、ああ、もう」

cha0071 ウイル

「うーん……………じゃあさ、昔みたいに仲直りのお風呂でも一緒に入ろうか」

cha0105 セラ 「えっ……、えええ！？ それは子供の頃だからできたことだわ。裸になってお風呂なんて……！」

cha0072 ウィル 「俺たちは夫婦になるんだぜ。一緒にお風呂だって、変じゃないだろ」

cha0106 セラ 「……そ、そう、ね……でも、まだ裸を見せ合うのは抵抗があるから……。タオルで隠して、背中合わせで入るなら……。仲直りのお風呂、入りましょう……？」

ニ音声編集時に間を空ける。+ちやぼん……という水音S E入れる。

cha0107 セラ 「ね、ねえ、あんまりくっつかないでちょうだいっ……」

cha0073 ウィル 「しょうがないだろ、狭いんだから」

cha0108 セラ 「なんですって！？ 人んちのお風呂を狭いだなんて！ って、あああっ……私ったら、またつまらないことで怒っちゃったわ……反省」

cha0074 ウィル 「照れ隠しなんだろ、わかってるから大丈夫だって。何年幼馴染やっと思ってるんだ」

cha0109 セラ 「ウィルは……子供の頃からずっと、優しいままよね。どんな私も受け入れてくれる……。ねえ、ほんとうにこんな私で、いいの……？」

cha0075 ウィル 「俺はガキの頃からずっと、結婚するならセラ以外考えられなかった。そういうセラだって、俺でいいのか？」

cha0110 セラ 「私だって、同じよ！ ウイル以外の男の人なんて目に入らないわ。全部、ウイルスに捧げたいの。私の心と体も、未来も、全部……」

cha0111 セラ 「……ねえ、そっち向くから、ウイルスも……お願い？ ……ちゅっ。仲直りのお風呂は、キスマでがセットだったわよね。あの頃は、ほっぺに、だったけど」

cha0112 セラ 「ん……タオルで隠してるとはいえ、裸なんだし……やっぱり向き合うのは恥ずかしいわね。……う、ん……ウイルス、あったかい」

cha0113 セラ 「……ねえ、ウイルス……明日から一緒に暮らさない？ 一日でも早く、ウイルスと一緒に生活をしたいの」

cha0114 セラ 「……それで、もう……キス以上でもいいんじゃないかって思うんだけど………?」

cha0076 ウイル 「一緒に住むのは賛成だ。でも、キス以上は式が終わってからにしよう」

cha0115 セラ 「むう……ウイルスだって、ほんとにもう我慢できないんじゃないの?」

cha0077 ウイル 「好きな女を抱きたいと思うのは、男として当然の感情だよ。でも、セラが昔言っていたから。そういうことは、結婚をしてからにしたいって」

cha0078 ウイル 「俺も、そうしようって答えたんだ。だから……験担ぎじゃないけどさ、二人で交わした約束を、ちゃんと守りたいんだよ」

cha0116 セラ

「……ウィル……あなたのそういうところ、大好きよ……んっ……はぁ……くらくらしてきた……」

cha0079 ウィル

「のぼせちまったんじゃないか。もう上がった方がいい。明日からこの家に住むことは、朝イチで姉さんに話しに行くから。……セラ、愛してるよ」

cha0117 セラ

「……私も、愛してるわ、ウィル。……じゃあ先に上がるわね。バスタオル、置いておくから」

cha0080 ウィル

「おう、ありがとな。……セラ、いい匂いだっとな。っ……だめだだめだ！ はぁ……俺ものぼせちまった……」

cha0081 ウイル

「姉さん、今日からセラの家で暮らすことになったんだ」

cha0089 アイシヤ

「そっか、いよいよこの時が来ちゃったか。ちよっぴりさみしくなるなあ」

cha0082 ウイル

「近いんだから、いつでも会えるよ。セラと一緒に遊びに来るしよ」

cha0090 アイシヤ

「そうね、私も遊びに行っちゃおうと。とにかく、幸せな家庭を築くのよ。お幸せにね」

cha0083 ウイル

「姉さんだって俺の大切な家族だ。何かあったらいつでも助けに来るから」

cha0091 アイシヤ

「うふふ、ありがとうございます……ウイルス。じゃあさ、さっそくお願い聞いてくれる……?」

【収録メモ】次の文章のみ。モノローグでお願いします。

cha0084 ウイル (M)

「ジスニアに届け物をして、とあることをしてほしい。そう姉さんに頼まれた俺は、早速ジスニアの元へと向かった」

cha0085 ウイル

「ジスニア。姉さんから本の届け物だ」

【収録メモ】かなり焦って下さい。

cha0082 ジスニア

「うっ!? あ、ああありがとうございます……早急に渡してくれませんか!?!」

cha0086 ウイル

「今開けて読み上げてやるからな」

cha0083 ジスニア

「ええっ!?! ちょっと、まっ……!」

cha0087 ウイル

「えーと、魅力的な女子になるには……だつてよ!」

cha0084 ジスニア

「いやあやめてえええええええっ……!」

cha0088 ウイル

「なっ、なんだいきなり大声上げて!?!」

cha0085 ジスニア

「ひどいです……!?!?! ウイルっ、なんでこんなことをするんですかっ!?!」

cha0089 ウイル

「いや、姉さんに言われたとおりのことをしたんだけど!?! 本のタイトルを読み上げてあげてくれって……!」

cha0086 ジスニア

「く……!?!? そういうことですか! あの人ほんとうにもう……!」

cha0090 ウイル

「??? どうしたんだ? ……魅力的な女子になるには、この本になんかあるのか?」

cha0087 ジスニア

「ああっ! だから読まないでください……!」

cha0091 ウイル

「うおっ!?! わかった、うん、いや、わからないけど、悪かった。……でも、ジスニアはもう十分魅力的なのに、何のためにこんな本読むんだ?」

cha0088 ジスニア

「……え? 私が、魅力的……? ほ、本気で言ってますか……?」

cha0092 ウイル

「ん? 嘘なんかつくわけないだろ」

cha0089 ジスニア 「……………私、時々、堅いと言われてしまつて……。どうしたらいいかわからなかつたのでアイシヤに相談したら、本を読んでみることを勧められたんです」

cha0093 ウィル 「へええ……じゃあ、他にもこういう本読んできたのか？」

cha0090 ジスニア 「え、はい……まあ……そこそこ、ですね」

cha0094 ウィル 「たとえば、どんなタイトルの？」

cha0091 ジスニア 「えつ……えつと……明るく爽やかになるための修行……とか」

cha0095 ウィル 「ほお、どんな修行するんだよ」

cha0092 ジスニア 「どんなつ？ えつと……鏡の前で口角をあげて——つて……！！ なんて言わせるんですかああああ……！！」

cha0093 ジスニア 「いいですか、ウィル！？ 女性には誰だって一つや二つ、知られたくないことがあるんですよ……！！ このことは念頭に置いてください……！！」

cha0094 ジスニア 「あと、この際なので伝えておきますっ。セラの夫になるわけですから、何があつても、セラだけを見つめてあげて下さいね……っ。」

cha0096 ウィル 「うん……それは、もちろんだよ。とにかくもう、こういう本は読まなくていいんじゃないか？ 俺は、今のままのジスニアがいいと思うぜ」

cha0092 アイシヤ 「うんうん、私もそう思うわ」

cha0095 ジスニア 「アイシヤ……っ!？」

cha0093 アイシヤ 「うふふ、悪戯大成功。ウィルもくろぼうさま。ねえねえ、セラが呼んでたわよ、行ってあげて」

cha0097 ウィル 「お、おう。ありがとう姉さん。じゃあ、ジスニア、またな！」

cha0096 ジスニア 「……ウィル！……本当に、ありがとうございます。その……嬉しかったです」

cha0098 ウィル 「いって」とよー」

cha0094 アイシヤ 「……ごめんね、ジスニア。ちょっとやりすぎちゃったかしら」

cha0097 ジスニア 「まったくですよ……。アイシヤは時々、突拍子もないことをしますよね」

cha0095 アイシヤ 「他に方法が思いつかなかったのよお。どうしたら、ジスニアは今のままでいいって気づいてくれるかなって」

cha0096 アイシヤ 「確かにこういう本を薦めたのは私だけど、ここまでかじりついちゃうなんて思わなかったからね」

cha0097 アイシヤ 「でも、もう大丈夫かなって思ったわ。夫としてセラのこと見つめてあげて、なんて……とってもいい子だわ……よく頑張ったわね」

cha0098 ジスニア 「……アイシヤ、聞いてたんですね」

cha0098 アイシヤ 「え〜？ 当然でしょ〜」

cha0099 ジスニア 「っ！ もう……！」

cha0099 アイシヤ 「まあまあ！ というわけで、そんなジスニアには、私の膝枕をプレゼントしちゃおうかな〜？」

cha0100 ジスニア 「膝枕……？ 頑張ってるご褒美に、癒しの魔法をかけてあげたいと思って……とか言うつもりですか？」

cha0100 アイシヤ 「ご名答！ さすが私のことよくわかってくれてるなあ〜、嬉しいわねえ、ふふ。さあ、おいで〜」

cha0101 ジスニア 「素直にお言葉に甘えてみます。んしょ……ん……なんだか不思議な気分です
ね」

cha0101 アイシヤ 「ふふ……私にとっては、セラもジスニアも可愛い妹なのよ。いつでも甘えていいんだからね〜」

cha0102 ジスニア 「アイシヤ……ありがとうございます」

cha0102 アイシヤ 「うふふ、どういたしまして。……ふわあああ〜。今日はお日様がぼかぼかで気持ちがいいわ……。こんな日がずっと続くといいわね〜……」

cha0103 ジスニア 「そうですね……。子供たちの楽し気な声も、心地が良いです……。これからずっと、この穏やかな日々を守っていかないと……ふあ……あふ」

cha0103 アイシヤ

「あら、眠くなってきたやつた？ このままちよっとお毎寝したら？」

cha0104 ジスニア

「ん……そう、ですね……この眠気には敵いそうにないです……少し、寝かせてもらいますね……ん……くぅ……すぅ……」

cha0104 アイシヤ

「くすくす、もう寝ちゃった。……これからは何があるかと私たちは……姉妹であり、大切な仲間だからね。おやすみ、ジスニア……」

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0105 アイシヤ (M)

「私の守るべきものが、ここにはたくさんある。ジスニアも、セラも、そしてウイルスも……」

cha0106 アイシヤ (M)

「この愛しい人たちのためなら、私は自分を差し出してもかまわない。どんな手を使っても、いつまでもこの幸せを守り抜く——」

// ▼ G0004 求められる快楽に馴染んでいく

【収録メモ】 落ちた後の事後です。嬉しい感じです。

cha0105 ジスニア 「はあ……はあ……はあ……ん、はあ……」

【収録メモ】 以下、モノログでお願いします。

cha0106 ジスニア (MF) 「街の近くに根城を作っていた山賊は、戦士団の活躍でこの地を去った……それは、真

実ではありません」

cha0107 ジスニア (MF) 「戦いの中で、山賊の長であるクローズに捕らえられたジスニア・ベルツール……私

は、次第に身も心も囚われ、肉奴隷と化しました」

cha0108 ジスニア (MF) 「初めてを奪われる時は恐怖と憎しみでいっぱいでしたが、クローズ……いいえ、ご主

人様の行為は優しく、とても淫らで、繊細だけど猛々しくて……っ！」

34

cha0109 ジスニア (MF) 「私はあっという間に……女の悦びを覚えてしまったのです。でもご主人様は、私だけ

では満足してくれませんでした」

cha0110 ジスニア (MF) 「因縁の相手である戦士団と、その団長であるセラに異常なまでの執着心を抱いていた

のです」

cha0111 ジスニア (MF) 「要求に従い単身、私を助けにきたセラに、ご主人様はある取引をもちかけました」

cha0112 ジスニア (MF) 「山賊達は町から手を引き、なおかつ私を解放する。その代わりに町の外れの山小屋に

セラを通わせて、その身体を自由にする」

cha0113 ジスニア (MJ) 「この取引を反故にした場合、私は自害するように言われたのです。……逆らえない、
とうとうやり、逆びつつもりはない」

cha0114 ジスニア (MJ) 「だって、私の愛しい人からの命令だから……」

cha0115 ジスニア (MJ) 「そしていよいよ、約束の刻限がやってきたのです——」

【収録メモ】以上、モノログ終了です。
≡ 音声編集時、ここに間を入れる。

cha0116 ジスニア 「あふあっ、あおおっ、んうううっ、ご主人様のおちんぼおっ！ ああっ、きもちいい
いらいですううううっ、んううううっ、あふあああっー！」

cha0117 ジスニア 「あっ、あっ、あっ、あひひっ、んやあああああ、もっとおおお
っー！……！」

cha0118 ヤシ 「ジスニア……あ、あ……んじして、どうして？ ねえ、お願い、正気に戻って……」

cha0118 ジスニア 「んうっ、なううう……あっ、あっ、あああ……何を言っているのですか、セラッ、
あふっ、私は正気ですよお？ あっあっあっ、これえ……ぐいすうううっ」

cha0119 ジスニア 「んうあっ、んあっ、あふうあっ、ああ……セラあ、ちゃんと見て下さいねっ、私の
おまんこだ、おちんぼがすぼすぼしてるといひひっ、ああっ、あっ」

cha0120 ジスニア 「はひっ、ひいっうううん、見られたら、私、興奮しちゃうんですうっ、あっ、もっ
と気持ちよくなっちゃうんですうううううっ、ひっ、ひうあああっ」

cha0121 ジスニア 「じゅうんっ、たまら、ないいいっ、ああああっ、あん、あんっ、あんっ！ ご主人様
も興奮してるんですね、あっあああっ」

cha0122 ジスニア 「あああっ、そんなに激し、く腰を突き上げて、あっ、あっ、ああんっ、ふあっ、あ、
あっ、すっいいっ、あああっ、んうあ、おああんっ！」

cha0119 セラ 「っっっッじう……ジスニアああ……！」

cha0123 ジスニア 「あああっ、あっ、ふお、あっ、ああっ、イクっ、あっ、ご主人様のおちんぽで、私、
イキますじうじうじうっ！ んあうああああああっ……！！！」

cha0124 ジスニア 「ああっ……あふっ……ふうう……はあ……あは、あああ……精液いい……私の中に、
注がれてるじう、んうっ、ああ………」

cha0125 ジスニア 「はあ……はあ……ありがとうございます、ごびいました……、気持ちよかったですっ……」

cha0120 セラ 「……ジスニア、あなたが……こんなこと、する、なんて……」

cha0126 ジスニア 「ふうう、ふう……こんなことお……？ セックスですかあ……？ ご主人様と私のラ
ブラブな子作り……どうでしたかあ……？」

cha0127 ジスニア 「……んふふ……ふあ……ふう……はあ、はあ……お待たせしましたセラ……次はあな
たの番です」

cha0121 セラ 「……っッ！？ そんなエッチなこと、しなきゃいけないのっ……！！？」

cha0128 ジスニア 「もちろんです。あなたにもこの気持良さを知ってほしいから……。でも主人様は優しい方なんです。あなたのことを思って、どちらかにして下さるそうですよ」

cha0122 ヤリ 「……え、どちらかって、なにが……？」

cha0129 ジスニア 「上の口と下の口、どちらを主人様に捧げますか……？」

cha0123 ヤリ 「っ、はぁ……っ！」

cha0130 ジスニア 「どちらか一方の穴にしか手を出さないと約束して下さいるそうです」

cha0124 ヤリ 「っっっ？ そんなの、どっちもイヤにきまつてるじゃないっ！」

cha0131 ジスニア 「あら、じゃあ約束を違えるということですね？」

cha0125 ヤリ 「待って、そう言うわけじゃ……！」

cha0132 ジスニア 「あぁ、そういえば、セラにはウイルスがいました。であれば私、こんなことを聞いた「ト」がありがとうございます」

cha0133 ジスニア 「娼婦はどれだけ身を許しても、唇と口だけは、愛した男にのみ捧げるそうですよ。あぁ、どっちかを選びますか、セラ」

cha0126 ヤリ 「……………っ、っ……………っ、ト、ト……………」

cha0132 セラ 「んんっ……んんっ……、ああ、つやめて、そんなに、おっぱい、いじらないでえ……
……！ あんっ……」

cha0140 ジスニア 「おっぱいはやめてほしいんですかぁ……？ そうですかぁ。じゃあ、足を広げて……
ほら、主人様が見てますよ」

cha0133 セラ 「ああぁっ……やだ、あっち向いてよぉ……！」

cha0141 ジスニア 「セラったら、わがままな子ですね。そんな悪い子にはおしおきます」

cha0134 セラ 「んんんんうっ！ あぁぁっ、あぁぁっ、あん、んんううううっ……！」

cha0142 ジスニア 「今、私が触っている突起物、なんていうところかわかりますか？」

cha0135 セラ 「あっ、あっ、んっ、くうう……ふ、あ、あ、わからないいいっ……あん、あん、ん
ぁっ……」

cha0143 ジスニア 「ええ、本当ですか？」

cha0136 セラ 「はぁうっ……んん、んあぁっ、ほんとに、しらないのおお……つやぁぁっ……あぁあ
っ……はげううっ……あ、あ、あっ」

cha0144 ジスニア 「その様子じゃほんとに知らないみたいですね。クリトリスっていうんですよ。ほら、
言ってみてください」

cha0137 セラ 「んんっ……や、そんなの言いたくないっ——ああああっ、あんっ、あんっ、あああ
あっ、やまあ言うからあっ、やめてええっ！ あああっクリトリスううううっ！」

cha0138 セラ 「あ、あ、あ、やだっ、そんなにいじられたらあ……ああああっ、あっ、イクっ！
イクっ！ このままじゃイっちゃううううっ！——」

cha0139 セラ 「ひもあああああっ……！」

cha0140 セラ 「はううっ……みうっ……は、はあ……うあ……ああん……ああ……はあ……うう……
んん……」

cha0145 ジスニア 「セラ、イっちゃったんですか？」

cha0141 セラ 「はあ、はあ……イっちゃった……はあ……」

cha0146 ジスニア 「あら、イクってこと知ってるんですね。なんでオナニーしたことないのに、イクこと
を知ってるんですう……？」

cha0142 セラ 「んんっ……！ あ、ああ……そ、それは……あ、あ……やあ……」

cha0147 ジスニア 「くすくす、大丈夫ですよ、わかってましたから。幼なじみじゃないですか、私たち」

cha0143 セラ 「へっ……うう……なんなのよ……お、うううう……」

cha0148 ジスニア 「だって、ウイルスともまだエッチしてないんですもんね？ 欲求不満になるのも仕方な
いです。ウイルスったらひどい男ですね」

cha0144 セラ

「っっ……！ 違う！ 二人で約束したことだもの、結婚式を挙げるまでは……っっっ
うことはしないって……だから、ウイルスは私のことを思っ……！」

cha0149 ジスニア

「そうなのしょうか？ 本当にあなたのことが好きなら、ガマンなんてできないと思いま
すけど……？」

cha0145 セラ

「なにを言っ……？」

cha0150 ジスニア

「こんなに魅力的なセラに手を出さないなんて……私ならどうするか教えてあげます。
セラ、イキまくりましょう！」

cha0146 セラ

「ふええ……っ ひあっ！？ やっ、やあああ……！ だめ、今は、敏感になっ
てるからあ、中に指入れないでええ……ふあああっ、あ、あああ……！」

cha0151 ジスニア

「あああ……セラのエッチな汁がどんどん溢れてきますよお」

cha0147 セラ

「いやっ、だめ、指はだめなのお……ああっ……あああ……やあ……んんっ、ん
ん……っ……」

cha0152 ジスニア

「一人でするときは、指は入れていないんですか？」

cha0148 セラ

「あああ……だっ……だっ……だっ……だっ……だっ……だっ……だっ……だっ……だっ……
破れちゃった……んん……だめだからあ
……怖くて……ふぁ、ん……」

cha0154 セリ

「さっきの薬、なんなの……ああ……絶対何か、変なのが入ってるでしょ……！」

cha0158 ジスニア

「本当に避妊薬ですよ？　ただ、副作用があるのが玉にキズかもしれませんが、ふふふ
っ」

cha0155 セリ

「へっ……う……う……これを毎日飲むなんて……絶対に、いやよ……！」

cha0159 ジスニア

「飲まなかったら子供がでちゃいますよっ」

cha0156 セリ

「んっ……う……う……う……そんなの、もつと、いや……！」

cha0160 ジスニア

「ではおとなしく飲むことです。大丈夫、ご主人様は約束は守ってくださいます。ウイ
ルにもバレないようにしますよ、絶対にね。くすくす……」

cha0161 ジスニア

「さあ、十分に休憩できましたよね？　続きをしましょうねっ」

cha0157 セリ

「いっ………！？　あああ、んふううああっ、さっきよりも激しいっ！　あっあ
あ、あっあ、ふあああああっ……？」

cha0158 セリ

「あっあああっ、や、やあああ、また、きちやうっ、あああっ、あんっ、あっふああ
ああああああああああんっ………！」

cha0162 ジスニア

「気持ちいいですか？　気持ちいいですよねっ。もつともつとですよねっ……？」

cha0159 セリ

「あひいっ！　そんなにしたら処女膜破れちゃううううううっ……！　やっ、やっや
めてえええええっ！　あああああああああああ………！」

cha0107 アイシヤ 「……っ！ セラっ!? 一体何をしたの!？」

cha0167 ジスニア 「ひどいこととはしていません。気持ちよすぎて意識を飛ばしちゃっただけですよ。さあ、アイシヤ……わかっていますね？」

cha0168 ジスニア 「おっぱいでおちんぼを挟みながら、口でしゃぶってくださる」

cha0108 アイシヤ 「い……言うとおりにすれば、セラとジスニアにはひどいことをしないのよね……っ」

cha0169 ジスニア 「おふふ、しませんよ。安心して下さい。そうだ。始める前に、この避妊薬を飲んでくださいね。同じ物を先ほどセラも飲んでますから」

cha0109 アイシヤ 「……これって……本当に避妊薬なの？」

cha0170 ジスニア 「疑り深いですねえ。私も飲んでます。ほら、赤ちゃんはできていないでしょうっ」
「おふふ」

cha0110 アイシヤ 「……………ジスニアっ、あなたそこまで……………わかった、飲むわ。んくっ、んくっ……」

cha0171 ジスニア 「これから、毎朝飲むようにしてくださいね。継続しないと避妊できないですからね。では……始めてもらいましょうか」

cha0174 ジスニア 「ああっ、一滴もこぼしてはいけませんよ！ ご主人様の注いでくれた精液なんですか
ら……！ 全部飲み干してください！」

cha0119 アイシヤ 「んっ、んっ、んくうっ、んくっ、んくっ……………んおはっ……………はあ……………はあ……………うう
あ……………ああ……………これが、男の人の、精液い……………ふあああ……………」

cha0175 ジスニア 「ういふふふふ、初めてにしては上出来ですよ！ さすがアイシヤですよ！」

cha0176 ジスニア 「ああ、ご主人様、出したばかりなのに、おちんぼがピンピンです。ふああっ……………っ。
アイシヤ！ 今すぐ四つん這いになって！」

cha0120 アイシヤ 「……………きゃあっ！ な、なにっ!？」

cha0177 ジスニア 「アイシヤの処女喪失は、バックからにしましょう！ ご主人様っ。この大きなおし
りにたくさん腰を打ち付けてくださいっ！」

cha0121 アイシヤ 「ひ、ああ……………この格好……………ワンちゃんみたいだわ……………セックスってこんな格好でする
ものなの……………?」

cha0178 ジスニア 「アイシヤもこれから色々知っていくんですよ。さあ、ご主人様あっ」

cha0122 アイシヤ 「ん、んんっ……………あああっ、男の人の、入ってきたあっ……………あ、んっ……………何これえ……………
ん、あ、あ、くう……………ん……………んんん……………っ」

cha0123 アイシヤ 「あぐうっ、ふ、ううう……………一番奥に、届いちゃったあ……………あああ……………す、す……………おい……………
……………んんううっ……………」

cha0124 アイシヤ

「あ、あれえ……？ 初めてのセックスって、ふう、んん……痛いんじゃないの……？ まったく、痛くないわ……はあ、はあ……」

cha0179 ジスニア

「ふふふ、あつという間に飲み込んでしまいましたね。痛くないのは、ご主人様がお上手なのもありますが、アイシヤがエッチだからじゃないでしょうか」

cha0125 アイシヤ

「はあ、ん……そうなのかなあ……あ、ああ……私、エッチなかしらあ……こういうの、ほんと、わからないから……ふ、ううううつ、あんつ、あ、あああつ……」

cha0126 アイシヤ

「あつあ……あううう……ひやあ……ん……んんうう……ああつ……んんうつ……は、はあん、あ、あ、気持ちいい、す、い……ああつ、あふつ……んんつ……」

cha0180 ジスニア

「さすがはアイシヤ！ これぞ、男を惑わす肉体ですねつ。あなたは、生まれながらに淫乱な女なんですよ」

cha0127 アイシヤ

「うううつ、んん、ん、うううあつ……そんなことない、もん……？ あつ、あつ、淫乱じゃないもん……つ、ああ、あつ、あ、あああんつ……」

cha0128 アイシヤ

「ひあつ！ あんつ、あんつ、エッチな声、ふうああつ……いっばい出ちやううつ……あああつ、あんつ、あああつ……ふあああつ……」

cha0181 ジスニア

「はち切れそうなおっぱいがばゆんばゆん揺れて、おしりも波打ってる！ こんな風にな、ご主人様を誘惑するだなんて……！ ん、ふうううつ……」

cha0182 ジスニア

「ほんつとにどスケベですね、アイシヤは！ はあ、はあつ……そんなの見せつけられたら……私も、したくなっちゃうう。はあああつ……指、止まらないいっ……」

cha0129 アイシヤ

「はあああつ、ああつああつ、あああんつ、私いいつ……そうなのお？ エッチなのお……？ はふう、ん、ん……どスケベなのお……？ んんつ……」

cha0130 アイシヤ

「あ、あづつ、うつ、くうづつ……あつ、あつ、あうあめ、ふうづつ……あめ、はあううう、んんつ、ああつ、あああつ……」

cha0131 アイシヤ

「ううづつ、ううづつ、はあつ、はああつ、さつきみたいにつ、んつ、中で、震えてるうつ、あんつ、なにいいっ？ あんつ、なんか、くるうづうづうづつ……」

cha0132 アイシヤ

「ああつ、あつ、ああつ、ひあつ、あ、やつ、やあああああああああああああああああああつ……」

cha0133 アイシヤ

「あうづつ、ううづつ……ううづう……ああ……中あ……熱いのが、中に流れてくるう……私もおお……ビクンビクンしちゃうづう……」

cha0134 アイシヤ

「身体が……ああ……あつ、あつ……力が入らないいい……ふあああああああん……私、どうしちゃったのお……？」

cha0135 アイシヤ

「はあ……はあ……アイシヤ、それがイクつてことですよ……ん、ああ……私も、イっちゃいましたあ……」

cha0136 アイシヤ

「う、これがあ……はあ……ああ……はあ……はあ……あ……あれ……私、待って、こんな風になるなんて、普通じゃない……やっぱりの薬……変なの……」

…」

cha0137 アイシヤ

「くすくす、さっきのが本当のあなただと思いますよっ」

cha0136 アイシヤ

「ああ……そんな、違うもの……私は、こんなこと初めて、で……」

cha0185 ジスニア

「ありのままがいいんですよ……」

cha0137 アイシヤ

「はあ、はあ……ん、ふうう……」

cha0186 ジスニア

「ちあ、まだまだこれからですよおー」

cha0138 アイシヤ

「んん……はあ、そんな、私、もうハロハロ——んんんううう、ふふうああ……！……？

あつ、あつ、あつ、あつ、あああああああああ〜〜！？」

【収録メモ】以下、モノローグでお願いします。

cha0165 ヤリ (M) 「今日も山小屋に呼び出され、ジスニアの愛撫で執拗に責められる。でも今日は前と違った」

cha0166 ヤリ (M) 「絶頂を迎えそうになると手を止められてしまい、私は……頭がおかしくなっています。そうだった——」

【収録メモ】以上、モノローグ終了。

cha0187 ジスニア 「はあ、はあ……セラ、イキそうですか？」

cha0167 ヤリ 「あんっ、あっ、あっ、あああっ……うっ、うっ、うっ、きちやう、うっ、うっ……！」

cha0188 ジスニア 「へすへす、ダメですよおっ」

cha0168 ヤリ 「あああっ……ああ……うっ、っ、てえ……もう、もう許してっ、おっ……」

cha0189 ジスニア 「ふふふふふふ、はあ……わあ、これっ一旦おっ、おっ」

cha0169 ヤリ 「んあっ……っ、は、うふ……やああ……私、まだあ……」

cha0190 ジスニア 「まだ、なんですか？」

cha0170 ヤリ 「っ……っ、な、なんでもなく……っ」

cha0191 ジスニア

「これから別の予定があるんです。その間隣の部屋で待機して置いて下さい、セラ」

cha0171 ヤリ

「ん、んう……別の……予定い……？ なに、をするのお……？」

cha0192 ジスニア

「気になりますか？ ……少し、扉を開けておきますから覗いておくといいかもしれません、くすくす」

cha0172 ヤリ

「ああっ……じ、ジスニア、待って……。私、ほんとに、このまま放置されちゃうの……？ はあっ……はあ……そん、なあ……んん、ううう……」

【収録メモ】次の文章のみ、モノローグでお願いいたします。

cha0173 ヤリ (M)

「避妊薬の副作用が私の身体を火照らせる。絶頂したくてもできなかったもどかしさが、身体の奥深くずぶついている」

cha0174 ヤリ

「はあ……はあ、ん……だめ、ガマンしなきゃ……んんんっ……。耐えるのよ……く……ぶう、ん……」

cha0175-a ヤリ

「んん……戦士団で戦ってきた苦しみに比べたら……、なんてこと、ないわよ、こんな のっ……はあ、はあ……」

【収録メモ】次の文章のみ、モノローグでお願いいたします。

cha0175-b ヤリ (M)

「襲いかかる欲望を必死で押さえつつ、私は唇を噛みしめながら扉の向こうの様子を伺うのだった——」

cha0193 ジスニア

「入って来て下さい」

cha0139 アイシヤ 「……失礼します」

cha0176 セラ 「っ……………!? アイシヤ……………!?!」

cha0194 ジスニア 「アイシヤ、今日も何をするかわかっていきますよね?」

cha0140 アイシヤ 「わかってるわ……。約束、守ってね」

cha0195 ジスニア 「もちろんです、さあ」

cha0141 アイシヤ 「……ズボン、脱がすのよね。……ああっ……膨らんでるの、パンツ越しにわかるわ……。んっ……………ふあああっ……男の、匂いがする……」

cha0142 アイシヤ 「あむっ、れるっ、ぢゅ……………ん、んっ……………ぢゅぽ、ぢゅぽ、れる、れる……………ふっっ、じゅっ、じゅぶ、はふ、ん、んっ、んっ、ぢゅっ」

cha0177 セラ 「アイシヤ……………なにをして……………るの……………?」

【収録メモ】次の文章のみ、モノローグでお願いします。

cha0178 セラ (NM) 「アイシヤが、突然あいつの下着を脱がしたかと思うと、男性器を咥え始めた——。その姿に私は動揺を隠せなかった」

cha0143 アイシヤ 「えるっ……………れる、れる、っ、れっ……………ふっっ、はあ、ええええ……………ぢゅっ……………ええええ……………っ、っ、っ、っ、っ、っ……………」

cha0144 マイシヤ 「んっ、やっぱり、固くて、大きい……んっ、ぢゅっ、れろえっ、じゅぼっ、ぢゅぼ……んちゅっ、ん、はあっ……」

cha0145 マイシヤ 「あむっ……るれっ、んぷっ、ちゅぼっ、んん、ちゅ、ちゅっ、ぢゅぼっ……あむるっ、れろるっ……んっ、ちゅぼっ……」

cha0146 マイシヤ 「んあっ……口の中で、どんどん、膨らんでるわ……はあ、あっ……れろ、れろっ……ちゅぼ、ちゅぼあっ」

cha0147 マイシヤ 「んっ、んちゅっ、んあ……じゅるっ、じゅぼっ……んあっ、こっすれば、気持ちいいかしら……？ じゅるるっ、んちゅっ、ちゅぼっ……」

cha0148 マイシヤ 「んっ、ん、んむっ、んっ、ぢゅ、んぷっ、ぢゅっ、れろ、えるるっ、んっ、んぷっ……」

(射精)

cha0149 マイシヤ 「ふはあああああっ……！ んはあっ……あっ……噴水みたいに飛び出て……ああ……顔に熱いの飛んでくるっ……はあ、はああん……」

cha0150 マイシヤ 「んっ……ろっ。ああ……やっぱり、この味……んぷっ……苦くて濃いっ……んっ、んっ……」

cha0151 マイシヤ 「はあ……あれえ？ 大きいままよ、これ……。んっ……もう一度？ わかったわあ……あむっ、じゅるっ、じゅぼっ、んっ、ちゅっ、ぢゅっ……あむっ」

cha0153 アイシヤ

「れるれるっ、れるうっ、んん、ぢゅぶ、ぢゅぼっ、んんむっ、んあ、震えてきたあ、あ、あ、いいわ、出してっ……んあっ、ぢゅてぢゅぢゅるうっ、っ、っ、ぢゅぼぢゅぼ」

cha0187 ヤラ

「いやめっ、あん、あうっ、んん……んっ、あめっ、……私もびくびくきぢぢやううっ……イク……私イっちゃうう……」

cha0154 アイシヤ

「ぢぢぢゅっ、んっ、ぶうっ、れるれるろ、ぢゅぼぢゅぼっ、ぶっ、っ、ぢゅっぼっ、っ、ぢゅ、ぢゅぼっ、んうっ、ん、ん、んんんんんんんんっ……」

cha0188 ヤラ

「あっ、あっ、あああめっ、ひああっ、いつ……イクう、イクッ……イクううううううううううううううんんっ……」

cha0155 アイシヤ

「んぶうめあっ！ あっあ、あっあああああめあっ………！ ビュービュー出してっ、うううううううう………」

cha0189 ヤラ

「あめっ……あぶう……ん……はめっ、はめっ、はあああ……ああ……」

cha0156 アイシヤ

「はあ、はあ……まだ固いままお……んうう……まさか、また前みたいに……？」「へっ……」

cha0196 ジヌニア

「そうですね、そうしましょうか！ ほら、後ろを向いてアイシヤ！」

cha0157 アイシヤ

「やあん、また私……動物みたいに交尾しちゃうのねえ……ん……っ、ん、んううんああああめあっ………」

cha0158 アイシヤ

「ああっ……あああ……すごおい……ん……ひと突きさされただけで、あ、ああ……少し
イっちゃったわあ……ああ……」

cha0197 ジスニア

「んふうっ！ アイシヤ、イキ癖がついちゃいましたね！ そんなエッチなあなたのご
と、ご主人様がなんて言ってるか知ってますか？」

cha0198 ジスニア

「淫乱デカ乳女……ですって！」

cha0159 アイシヤ

「ああ……んんっ、そんなあっ……そんなこと言わないでっ、ひいっ……あ、ああ……
……だめえ……うづっ……感じちやうづっ……」

cha0160 アイシヤ

「ひああんっ……や、やあっ……おっぱい、後ろからそんなにぎゅうってしないでえっ
……あぶうづっ……ん、んああっ、ひっ、ひうづっ」

cha0161 アイシヤ

「あああんっ、あん、っああああっ、ズンズンすごいっ、ああっ、あっ、あああっ、
私いいまたすべイっちゃうかもおとおっ……！ ああっ、あっ、あああっ」

cha0162 アイシヤ

「んんあっ、あっあ、ああっ、あああっイクっイクウウウウウウウ……
……-----」

cha0163 アイシヤ

「あひいっ……ひい……んんん……はあ……はああああ……きもち、いいいい
……」

cha0164 アイシヤ

「はあ……ああ……はっ、はあ……。ええ……？ まだ、するの……？ はあ、はああ
……ほんとだわ……まだソレ、おっきいままね……わかったわあ」

cha0207 ジスニア 「ああっ、ご主人様、もっと突き上げてくださいっ、あっ、私もっぱいっ、パロパロしますからっ、はっ、はあっ、ああっ、はあああっ」

cha0175 マイシヤ 「うっ……うっ………っっっー！ ひゅっっっ……ツツツッ！ うっっっ、うっ、ひゅ、ひゅっっ………っっっっー！……！」

cha0208 ジスニア 「あっ、はっ、はああっ、はっ、はああっ、この、おしりっっ……はあっ、たまらなうっすっ、はあっ、ふっ、はあっ！ ほらっ、自分からも動きなさいっー！」

cha0176 アイシヤ 「あひゅっっっ……んっ……！ おしりっっ……はあんっ……たたかないでええっ……っっ、ああっ……ひゅっっ……ペリペリするっっ……ひゅっっ………！」

cha0209 ジスニア 「んっっ、んっっっ……はあ、はあっ……アイシヤあ……ほんとあなたってエッチですっ、ん、んっ、んあっ」

60

cha0210 ジスニア 「はあっ、はっ……ああ……私も、あなたのような身体があればあ……っ、ご主人様をもっと悦ばせられたでしょうにっ……ふあっんっ、んんっ」

cha0177 アイシヤ 「んっ………っっっ……、っっっ……！ ひっ……いっっっ……いっっっ……あっ……ああっ、あああっ……い、イクッ……ツツッ、っっっ………！」

cha0178 マイシヤ 「んっ………あああああああああああ………！」

cha0179 アイシヤ 「んあっ……はあっ……ひゅっっあっ……ああああ……あああ……はひっっ……ひゅ………っっ………っー！」

cha0211 ジスニア
「はあ……んはあ……はあ、はあ……んん……ふう……はあ……気持ちよかったですか
……? もっと、おねだりして下さい……!」

cha0180 マイシヤ
「……う……う……ん……ああ……はあ……ああ……も……も……と……とお……も……も……と……
イカせてええ……はあ……はふあ……」

cha0212 ジスニア
「ふふ……ふふふふ……主人様もイってないですし、まだまだ責めてあげます……
……!」

cha0181 アイシヤ
「あああああつ! んああつ、あつ、んあああ! あつ! ああああつ! あふあ
あつ! んううあうあううう……!」

cha0182 マイシヤ
「ああああつ、あつ、ああああつ、らめつ、あへううつ、ひらいらあつ、あつあ、
あつあ、ああああつ、お尻、どうしてえええつつ、慣れてきちゃったああああ
あ……!」

cha0183 マイシヤ
「やあああああつ、きききき、いらいらつ、あああつ、あああつ、頭、まっしろにな
うちやうううあううううつ、あああああつ……!」

cha0184 アイシヤ
「あんつ、あんつ、あ、ああつ、ああつ、ふあああつ、もっと、もっとおつ、両方の穴
あつ、かき回してええつ、くああ、ああんつ、もっと、ほしいらいらつ」

cha0213 ジスニア
「はああ、はつ、んつ……んふふつ、アイシヤ、やみつきになつちやって、お望み通り
に、してあげますねつ、ん、んあ、あつ、あ、ふつ」

cha0185 アイシヤ 「あっひああああああっ、ああっああああっ、うああっ、ああああっ、あっ、あん
っ、んぷうあっ、あああ、ひんぷうぷう、あうううあっ」

cha0186 アイシヤ 「ふあああ、あっ、あああっ、イクッ！ イクウイクイクウウウウウウウ
ウウ……………」

cha0187 アイシヤ 「あひ…………い…………くあ…………っ…………あ…………い…………っ…………ああ……………」

cha0214 ジスニア 「ぷう…………ぷう…………アイシヤ？ アイシヤ〜？」

cha0188 アイシヤ 「ひ…………うう……………ん……………」

cha0215 ジスニア 「あらら…………、失神しちゃって…………くすくす、かわいい。ご主人様、まだ物足りない
ですよね…………？ 私も、あなたの感じている顔をもっと見たいです…………」

cha0216 ジスニア 「そうだ、セラを呼んで来ますね。セラ、セラ〜！ ……セラ？ ああ…………おまたから
そんなにお汁をだらだら垂らしちゃって…………」

cha0190 セラ 「はあ…………はあ…………ジスニアあ…………私…………はあ」

cha0217 ジスニア 「セラ、一人でしていたんですね…………？」

cha0191 セラ 「ん…………んんう…………だっ、あんなの見たら…………はあ、はあ…………ガマンできなくなっ
ちやっただもの…………」

cha0218 ジスニア

「素直なセラ、好きですよ。じゃあ今より気持ちよくしてあげましょうか」

cha0192 セラ

「うん……おねがい……このままじゃ私……気が狂っちゃうから……」

cha0219 ジスニア

「あああっ……セラ……こっち来てえ」

cha0193 セラ

「ああっ……ん……ジスニアあ……あ、あ、あ、指いい……あっ、あああっ……もっ
と、してえ……ああ……ん……」

cha0194 セラ

「はあ……あああ……んんっ……ふああ……あ、あっ……あっ。それ、いい……んっ、
んふうあ……あああ……あん、あんっ……」

cha0195 セラ

「あ……あ、あ、ふああ……あ、あんっ……い、イキそお……イクううう……ふあ
あ、んあ、ふああああああああああああああ……！」

cha0196 セラ

「はあっ……ん……んはあ……ああ……はあっ、はあ……いつちやつ……たああ……あ
あ……」

cha0220 ジスニア

「セラがこんな薄けた顔するなんて……！ 中もトロトロに濡れています……なあ、で
はご主人様に入れてもらいましょうか……」

cha0197 セラ

「ふ、あ、ああ……？ 入れるって、何を……？ ……ふえ……まはなか……っ」

cha0221 ジスニア

「そうです、ご主人様のをセラの中に挿入するんです」

cha0198 セラ

「あ、あ、あああ……ほ、ほんとに、するのっ……っ」

cha0222 ジスニア 「約束、ですよね……?」

cha0199 セラ 「……ん、くうっ……! わかった、わやお……! でも……絶対に、感じないから……!」

cha0223 ジスニア 「くすくす、そうですかあ……。では、ご主人様、お願いします」

cha0200 セラ 「……っ! ひっ、こんなのが、私の中に入るの……!? ううっ、何よ……! 怖くなんか、ないわよ!」

cha0201 セラ 「そうやって、女を食い物にすればいいのよ……あんたなんて、地獄に堕ちるんだから……ケダモノ……!」

(セラが挿入され始める)

cha0202 セラ 「はあううう、いたっ——あ、れ……? い、いたくない……? え、え……な、なんぞ?」

cha0224 ジスニア 「……恋人同士のように、じっくり丁寧に愛してもらえるから、そうなります……」主人様は、女の悦ぶセックスをご存じですから」

cha0203 セラ 「そ、そんな……や、やめてよ……! 屈辱だわっ……! ああっ……ん、んくうう……もっとなんかに、しなさいよおっ……あ、あふっ、んっ……」

cha0204 セラ 「あ……あふ、んっ……ああん……ううっ、んん……はあ……ああん……あっ、ああ……ああ……いやああ、こんな奴ので、感じたくないっ……」

cha0205 ヤリ 「や、やあ……あ、あ、あんっ、あふうっ……。 ああっ、あう、ふ……んんっ……ああ
っ、あまじっ」

cha0225 ジスニア 「ん、ふふふ……私も、初めては優しく奪われました……ふふ……気持ちが良いでしょ
う、セラフ？」

cha0206 ヤリ 「ううっ、ああっ……いやっ、そんな……こんなの嘘よお……ああっ、あっ、ああっ
……やああああ……あ、あ、ああああ……」

cha0207 ヤリ 「ひうっ、あんっ……あ、ああっ、ああっ……い、いや、やだ、あ……い、イキそう
っ……やめて、ああ……そんなに優しく動かないで、ああっ、……あああっ！」

cha0208 ヤリ 「あっ……ん、んっ、んんっ……ふあっ！ あ、あん、あんっ……やつ、やあっ、中
で大きっ……あんっ、何っ、何？ まさか、あんたもイクのっ……！？」

cha0209 ヤリ 「んうっ？！ 中は、だめっ！ やだっ、やめてえっ……！ お願ひ、ああっ、ん、ん
ああっ……！」

cha0210 ヤリ 「あんっ、あんっ……ふううああっ……抜け、たあっ！ あああっ……でも、イクうう
ッ！ ひやああああああっ……！」

(外出し)

cha0211 ヤリ 「ん、んっ、ふうっ……ああっ、あっ、ひもああっ……！ ぶ、ぶうっ、くっ……熱いの
がかかっているっ……ううっ……！」

cha0212 セラ 「ああ……はあ、はあ……ん、ふう………ん、あ……うう……はああ……、身体が、
白いのでデロデロに……ああ……いやあ……」

cha0226 ジスニア 「はあ、はあ……セラ、外出しでしたけど、初めてにセックスはどうでしたか？」

cha0213 セラ 「んん……ふう、はあ、はあ……はあ……ん……んう……そ、そんなの……ああ……し
らないわよ……はあ……」

cha0214 セラ 「ああ……あ……こんなのお、ちがう、うう、……んん……この感覚、は……身体だけ
……心じゃない……ああ……」

cha0227 ジスニア 「セラったら、さっきは素直になっていたのに……ふふ、でもきくとすぐにご主人様を
求めるようになりますよ……」

cha0215 セラ 「はあ……うう……私、は……屈しない……」

cha0228 ジスニア 「ご主人様、今お掃除してさしあげますから。んちゅっ、れるっ、ちゅぽ、じゅるる
っ、ん、ちゅぽっ、ふっっ、ちゅっ、れるっ、じゅぽちゅぽっ」

cha0229 ジスニア 「はう、むっ……じゅぽ、れるっ、ちゅぽ、ちゅぽああっ……ああ……ご主人様……お
いしいですう……れるっ、んんっ、れるれるっ、ちゅう、ちゅぽおっ……」

cha0216 セラ 「はあっ……やめてえ……そんな音、聞かせないで……」

cha0230 ジスニア 「んあ……私の口の中で、どんどん硬く、大きくなる……かあむっ、じゅうう……じゅぽ
っ、ちゅっ、れるっ……えるっ……ちゅっ……」

cha0217 ヤリ 「はあ……んん……はあ、はあ……んっ……くう……はあ……」

cha0231 ジスニア 「ぢゅぽっ……んふぶう……セラ、お掃除フェラを見せつけられて、また興奮してきましたか……」

cha0218 ヤリ 「ち、ちがつ、う……！ ふ……うんっ……」

cha0232 ジスニア 「ほら見て下さい。ご主人様の、大きく反り返ってます……またあなたの中に入りたいみたいです」

cha0219 ヤリ 「そ、んな……や、やめて……。もういらないっ……！ んっ！ んうううああああ
っ……っ……」

cha0220 ヤリ 「ああっ……んっ、ああっ、あん、あんっ……ふああっ……んんっ……くうう、
ふううっ、ん、んっ、んんっ……はあっ」

cha0221 ヤリ 「はあっ……おっきい……んっ、んっ、ああっ、いやああっ……ああっ、ふ、ぶ
っ、あんっ、やああっ……」

cha0233 ジスニア 「セラ、ちいきより声が甘くぐやわしくなってますよ。感じているんですね」

cha0222 ヤリ 「あんっ、ん、ん、っくう、……ふああっ、やだっ……ん、うう……感じて、なんて
っ……あんっ、んんぶう……」

cha0223 ヤリ 「はあっ……はああ……ん……うううっ、んっ、はあ、はあ……はううっんあっ……あ
っあっ、ああああっ……はぶうっ、くぐ……」

cha0224 ヤリ 「ひゅうー! あっ、あっ、あんっ、ああああっ、やんっ、そんな、抜き差ししないでえっ、ううう、あはあっ、はああああっ」

cha0225 ヤリ 「あんっ、んんっ、ううっ、ふ……あ、ああんっ、うううっ、やだ、やだあ……きききき、ちよくなっちやううう……ああんっ……、あっ、ああああっ」

cha0224 ジスニア 「ん……セラ? なんて? もっと大きな声で言ってみてください」

cha0226 ヤリ 「ひゅううん、はっ、はああん、んん、やあっ、んんっ、ごめんなさい、私、あんっ、あんっ、きききいのおおっ……!」

cha0225 ジスニア 「ういふふふ、そう、それでいいですよセラっ、もっともっと感じていいんですからおー!」

cha0227 ヤリ 「はああうううんっ、あんっ、あんっ、あんっ、あんっ、あんっ、あんっ! ふううあああっー!」

cha0228 ヤリ 「あっ、あっ、あん、んんうう、ふ、ふうっ、太くて長いのっ、あんっ、あああっ、すじっすじっ、はっ、ううう、んんっ」

cha0229 ヤリ 「あっ、あっ、あっ、あっ、あああっ、やだやだやだやだ! はああっ、イっちゃぶうううううっ、ああっ、はううう、んんっ、んんっ、んっ!?!?!?!」

cha0230 ヤリ 「んあっ、あああああああああああ……!?!?!」

cha0231 ヤリ 「あふうう……あつ、ああつ……、ふええあつ、あああ……ああつ、中にい……何い……
…熱いの、入ってきてるううう……」

cha0232 ヤリ 「私、中出しされてるのお……？んっ、んううう……はああ……どくんどくんとしてる
うう……」

cha0236 ジスニア 「中出し、いらぬのじゃあな。」

cha0233 ヤリ 「うふあああ……うん……私のお腹の中、あつたかくなつてえええ……ポカポカするの
おお……」

cha0237 ジスニア 「これからも、ご主人様にたくさん中出しされましようね、セラ」

cha0234 ヤリ 「んふうう……はひら……」

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0235 セラ (M)

「戦士団の執務室で事務仕事に励む。仕事に集中しなければいけない。書類に目を通してサインをしなくてはいけないのだけど、文章がまったく頭に入っていない」

cha0236 セラ (M)

「あいつにいつ呼び出しをされるのかと考えていると、身体が火照ってしまふ。頭の中で、いやらしい妄想が止まらない」

cha0237 セラ (M)

「こんなのは薬の副作用。そう思えばおもうほど、息は乱れ……脳内で私は、犯されまくっている——」

【収録メモ】以上、モノログ終了。

cha0238 セラ

「は……んっ……や、だ、私……職務中なのに、こんなところ触っちゃ、だめよ……！
ああ……濡れてる……くぅ、うぅうぅ……」

cha0239 セラ

「う、う……んん……はあ、はあ……ああ……どうしよう……一人でこんなことするの
が、増えてきてるぅ……んん、あはあ……」

ニ扉を明ける SE

cha0240 セラ

「ひあっ！？ だ、だれっ、クローズっ……！？ ……な、なんで……なんで、あんた
がこんなところに来るのー？ ああ……これは、ち、ちがうわよっ……！」

cha0241 セラ

「なに、よ……窓際に立って……。こっちに来い？ 何するつもりなの……っ？ ぐく
っ……わ、わかったわよ……！」

cha0242 ヤリ 「あぁっ……やだっ、いきなり脱がさないでよおっ！ こっ、は……あぁっ……外から見えちゃう……戦士団のみんなが……ぁっ……」

cha0243 ヤリ 「んんううっ……！ 窓に押しつけないでっ……おっぱい乱暴にしないでええっ……
あ、あっ……！ あっ、あ、いやぁぁ……！」

cha0244 ヤリ 「あ、あんっ……！ あぁっ……違う、濡れてるのは……ちがうのお……！ あぁっ……あぁ……ぁっ……はぁっ、はぁ、ん……」

cha0245 ヤリ 「んんううっ……ほっ、あぁんっ……んんうう、あぁっ、あぁっ……ひ、ひぁぁっ………」

cha0246 ヤリ 「あぁっ……あ、あ、あっ、あっ、あんっ、！ あぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ……！
はぁ、はぁ……こんな……みんなが働いてる中で、私は……こんな男に……！」

cha0247 ヤリ 「んん……あぁ……はぁ、はぁ……はぁ……ううう……。わかってる、わよ、まだ終わらないんでしよう……はぁ……はぁ……」

cha0248 ヤリ 「でもお願い、このまま密蔵で入れるのはやめて……！ ほんとに、見られたら——あ
っあぁぁぁんっー」

cha0249 ヤリ 「ひぁ……や、やめてって言ったのに……ぁっ、あっ、あんっ、あぁぁっ、太い……
……！ ん、んんうううう……っ、あ、あぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ……」

cha0250 ヤリ 「んんううっ……あぁっ、あぁぁっ……あんっ、あぁっ、ひぁっ……ん、はぁっ……やぁ
っ、あんっ、んんううっ……」

cha0260 ヤリ
「ひっ……!?! え、あつ、ああっ……ウイ、ウイルっ!?! 外にウイルがいるっ…
…!?! うそっ……ああっあっ」

cha0261 ヤリ
「やだあっ、だめっ、止めてっ、んん、んあんっ……ウイルが、こっち、見ちゃうっ…
…からあっ! あんっ、あんっ、あんんっ、んあああああっ……!」

cha0262 ヤリ
「ひっ、いっ、いっ……んんあっ! あんっ、だめっ、ああっ、うそおおっ……私、く
ううっ、ああっ、んんああっ、ああっ……!」

cha0263 ヤリ
「あああっ、こんなやつとおおっ、一緒に、あんんっ、いつちやうよおおおお
っ……!」

(射精)

cha0264 ヤリ
「う、んあああうううう、うううううううううううううううううううううう……!」

cha0265 ヤリ
「ああっ……あ、あ、はあああっ……あああ……ウイルうう……あ……ごめん、なぞい
ら……あああ……私い、あう……ああ……」

cha0266 ヤリ
「はあ、ああ……私い……中出しなれまへって……イキまへってるのおお……あ、あ、
はあああああ……あ……」

cha0267 ヤリ
「うあう……あう……あああっ、またっ……! あ、あ、あ、もう、無理っ……や
あああ……やめてっ、うう、うあああう……あ、あ……お願い……!」

cha0268 ヤリ
「ひ、ひ、ううううう……うう、ああっ……腰が、ああっ……脚が、がががすすむ……う
ううう……ううう……はあ、んっ、んんんっ、あう……!」

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0189 アイシヤ (MJ) 「セラを抱いてきたというクローズがうちにやってきた。ひどいことはしていないのかと聞くと、彼は静かに笑みをこぼすだけだった」

cha0190 アイシヤ (MJ) 「ここに来たということは、おそらく私も求められてしまうのだろう。私が素直にしていば、セラにもジスニアにもひどいことはされない」

cha0191 アイシヤ (MJ) 「実際に彼女たちは抱かれたとしても優しくされていて、ひどいことはされていない」

【収録メモ】以上、モノログ終了。

cha0192 アイシヤ 「今日はここをするの？ 私とウィルの思い出の家なのに……。え、ご飯を……作れ、ですって？」

cha0193 アイシヤ 「いいけど……何が食べたいの？ 何でもいいって……それが一番困るのよねえ。うーん、ちよっと待ってて」

【収録メモ】次の文章のみモノログでお願いします。

cha0194 アイシヤ (MJ) 「あるだけの食材で、手早く料理を作る。ああ、こういうことウィルにしてあげてたっけなあ……弟との思い出を懐かしみながら、フライパンをふるった——」

cha0195 アイシヤ 「……はい、どうぞ。召し上がれ。……どう？ まあまあって……作りがないわねく……。ウィルは何でもおいしいおいしいって言ってくれたのに」

cha0196 アイシヤ 「あら、でもペロリと完食してくれたじゃない。え？ おかわりはないので……。これだけ。前もって言うてくれたら今度から用意するから、それでいい？」

cha0197 アイシヤ 「……んん、何？ あむっ……ちゅっ、んんっ、ちゅっ……んあっ……ちゅぽっ……。んん、ああこれ、初めてのキスだわ……はふ、はふう……」

cha0198 アイシヤ 「いきなり、何よ……もう……。えっ、もう一回するの？ わかったわ……んっ、ちゅぶっ……ちゅっ、ちゅぶうっ……ちゅぶっ、ちゅぶっ……ちゅぶっ、ちゅぶっ……」

cha0199 アイシヤ 「んあ……キスって、きもちいいのね……ん、ちゅ……ちゅむっ……ちゅっ……れるっ、んちゅうっ、えるうっ……ああ……舌を絡ませるのっっ、んちゅびっ……」

cha0200 アイシヤ 「ぢゅっ……ちゅぽっ、はふっ、ん……ふっ、ふっ……それっ……これからどうするの？ んちゅぶっ……んっ、ちゅぽっ……ああ」

cha0201 アイシヤ 「ええ？ お風呂？ お風呂に一緒に入るの？ いいけど……お風呂場はこっち。ほら、服脱いだらここに入れて……」

cha0202 アイシヤ 「え？ 身体洗って欲しい？ 今日のあなた、甘えん坊ね。じゃあ、身体洗うわね……。んう……。鍛えてるのね、たくましいわ……。改めて見てみたら、うん……」

cha0203 アイシヤ 「ああ……」ちゅっとおっきくなっちゃってる……。「こも、洗うのよね……。」
「っっ……おちん、ちん……」

cha0204 アイシヤ 「しっかり洗ってあげなくちゃ……んっ……んっ……ん、んっ……ふっ……」

cha0205 アイシヤ 「どんどん、固くなってきたわよね……気持ちいいの……？ はあっ……んっ、ん、はあ……ちゅっ、ユシユシしてあげる……んっ……」

cha0206 アイシヤ 「はあっ……はあ……んっ……はあ、はあ……、手ですると、こんな風になるのね……ちゅっ、ちゅっ……んっ……んっ……んんっ……んんっ……」

cha0207 アイシヤ 「んんっ……は、あっああっ……ああっ……ぐんぐん、してるう……ああっ、あっ、んんちゅっ……いいわ、出してっ……！ はあ、はあ、はっ、んんっ、んんっ……」

cha0208 アイシヤ 「ああっ……ああっ、ああっ……！ 白い、シヤワー……浴びちやってる……んっ、んっ……はあっ……はっ……あっ……」

cha0209 アイシヤ 「はあ、はちゅっ……ちゅっ……ああ……はあ……これえ……まだビクンビクンして、ぴゅっぴゅっしてるわあ……ああ……すごい。はあはあ……」

cha0210 アイシヤ 「舐めてキレイにすればいいの……？ わかったあ……はむっ……ちゅっ……んっ、ちゅっ……はあ……ドロドロが、口の中に……ちゅるっ」

cha0211 アイシヤ 「えっと……ん、この後はどうするの……？ ……はあ……はあ……んう……。え？ 帰る……？ うそ、でしょ……？ ああっ……待ってー！」

cha0212 アイシヤ 「……ほんとに、行っちゃった……そ、そんなあ……。私、この後どうすればいいの……ああ……」

cha0213 アイシヤ 「このままだなんて……あ……はあ……私、無理……でも、誰もいないし……。誰も、いない……？ っ、そうだわ……」

cha0214 アイシヤ 「んっ……あの人は、たしか、こうやって……おっぱいを揉んでくれたわよね……あんっ……はう……乳首も、ああ……くうんっ……」

cha0215 アイシヤ 「おまただっつ、はぁ……中に指、いれちゃお……ああっ……あっ、あっ……ああっ……あああっ……ぐちゅぐちゅ、してらうっ……はぁ、はぁあん……」

cha0216 アイシヤ 「ああっ、はううっ……んっ、ん、んっ……んんううっ……んあっ、あふあっ……ああ……ああ……はぁ、はあっ……」

cha0217 アイシヤ 「あ、あっ、あっ、くゝるうっ……ああっ……あっあ、あっあああっ、ひやあああああ
ああああああああんっ……!」

cha0218 アイシヤ 「ああっ、ああっ……はっ、はあああ……私いい……あの人みたいに、びゅーびゅー
エッチな汁っ……ああっ……出しちゃったあああ……なに、これ……はぁ、はぁ……
…」

cha0219 アイシヤ 「はぁ……はぶう……はぁ、気持ち、よかったあ……んんううっ……ぶう……ぶう……
…」

cha0220 アイシヤ 「あ……れえ……? 私ったら、何して……? ああああ……私、おかしくなっ
てきているの……?」

【収録メモ】声を潜めて下さい。

cha0275 セラ 「んっ……ふっあ……ああ……んっ……んんあっ……あふっ……くうっ……」

cha0276 セラ 「あ、んっ、やだっ……そんなところ、触らないで、あっ……！ これ以上は、ほん
に、だめっ……！」

cha0288 ジスニア 「深夜に、ウイルとセラの寝室で、ご主人様にエッチなことされるのって、どうですか
……？」

cha0289 ジスニア 「ウイルの隣で、そんないやらしい声あげて……セラも随分と変態になりましたね」

cha0277 セラ 「あああっ……そんなあ……っ。だ、め……ウイルが起きちゃっ……っバレちゃっ
う……！ ああっ！ いきなり舐めちゃっ……あああっ……」

cha0240 ジスニア 「大丈夫、ウイルは夕食に混ぜた睡眠薬でぐっすりですよ。セラがどんなに喘いでも起
きません」

cha0278 セラ 「あっっ……あふう……ん、んんっ……ほんと、に……？ ああっ！ あんっ、あ、そ
う……お……ああっ……あっあああ……」

cha0241 ジスニア 「そうだ、いいことを思いつきましたあ……。んっ……」

cha0279 セラ 「あっ、ジスニアあっ……！？ なんで、ウイルのズボンを脱がしてるの……っ！？
ああ、んんっ……あっ、ひっっん……」

cha0242 ジスニア 「セラがご主人様をイカせるか、私がウイルスをイカせるか……どちらが先か勝負しまし
よう。……れりゅっ……ちゅぼっ……」

cha0280 セラ 「っっ……!?? やめてえっ……私も、まだ……ウイルスの舐めたことないのにい…
…!」

cha0243 ジスニア 「かわいらしくて立派なおちんぼ……でも、ご主人様の方が、もっと……んあっむ…
…ちゅぶっ、ちゅぶぶっ、れるっい、れるっ……」

cha0244 ジスニア 「私が勝ったら、ウイルスの子種を初めて味わうのは……あなたではなくなりますよ……
ちゅっれるっ、んっ、んっ……ちゅるるるっ」

cha0281 セラ 「そんなの、だめっ……! くっ……ねえ、お願い……私の中に入れて……! そし
たら早くイケるでしょっ! お願いだからあ……!」

cha0282 セラ 「何を、どいっして……そんなこと、わかってるでしょ?? いつもしてる」どじゃない
の……。……う、う、う……!」

cha0245 ジスニア 「ちろ……れる……える……ほら、はやくしないと、ウイルスがイっちゃいますよお…
…?? えろっ……れるお……」

cha0283 セラ 「っっ……! お……おちん、ぼ……を、おまんこに……いれ、てえ……! つ……自
分で入れろ、なんて……うううっ……! やればいいんですよ……!」

cha0284 セラ 「う、うう、んん……あっ、ああっ……私、自分で……はあうっ……入れちゃったああ
……あぁあぁっ……」

cha0285 ヤリ 「うう……はぁ、ん……早く……下から突き上げて……！ はやくううう…… あっ、あっ、あっ、あっ、あっ、あっ……！」

cha0286 ヤリ 「あんっ、うううっ、あぁっ、ふぁっあ、あぁっ……！ あっ、あぁっ、あん、んんん……うううっ、ひびいっ……！」

cha0287 ヤリ 「あぁっ、あっ、あっあぁっ、激しいっいっいっ！ そうはその調子で、はやく……っえー！ あぁっ、あぁあぁっ……！」

cha0246 シスニア 「ちゅっ……ちゅっっぴぁ……んおっ……ふぁふぁふぁ……んっっ……れっっっ……れろれろ……！」

cha0288 ヤリ 「あぁっ、あぁあぁっ……ウイルスううっ、なんで、シスニアに舐められてっ……そんな気持ちよみそうな顔してるのっ……！ あぁあぁっ、あんっ……！」

cha0289 ヤリ 「んっ、ん、んっ、うううっ……うううっ、あぁあぁっ、あんっ、あんっ、あぁあぁっ、あぁあぁっ……！」

cha0290 ヤリ 「ひっっ、ん、ん、んあっ、あっ……きざやうっ、あっびびっ、あぁあぁあぁあぁあぁあぁあぁあぁあぁっ……！」

cha0291 ヤリ 「はぁあぁっ……あぁっ……あぁっ、私が……先にイっちゃった……あぁ……あぁあ……はぁ……！」

cha0247 シスニア 「れろっ……んふう……自分で動いて、ご主人様をイカせた方がいいんじゃないでしょうか？ ほら、はやくしないと、ウイルスが……ちろっ、れろおっ！」

cha0292 ヤリ 「ついだめっ！ ふっ、んっ、んっ……「うっ……！？」 ねえ、どうすれば気持ちいいの？ あっ……あっっ、んっ、どうなのよおっ！」

cha0293 ヤリ 「んっ、ん、あっっ……あ、今、気持ちよまごうな顔したあっ……、う、ううね？ あっ、あああっ……！ 早く、出しなさいよおっ！ ううっ、くうっ……」

cha0294 ヤリ 「ふっ……あっ！ うううっ、あっ、ん、ん、んっ、あああっ……私、自分で、うっ、あんっ、こんなに腰を、エッチに動かしちゃってる……っ」

cha0295 ヤリ 「あああっ、出してっ、ねえっ……はやくうっ、ああ、あああっ、あんあん、ううう、んんっ、ん、ん、やあああっ、また私っ……ひ、ひっ……あ、あああっ」

cha0296 ヤリ 「どうして私っ、こんなに感じる身体に、なっちゃったのおおっ……あっ、あっ……ウイルのじゃないのにいっ……あっ、あっ、あああっ！」

cha0297 ヤリ 「んんううううあああああああああっ……！」

cha0298 ヤリ 「ひうっ……はあ、は、はあっ……あ、あっ、あああっ……あん、あんっ、はあ……はあ……あああああっ……あ、あ、あああっ……」

cha0298 ジスニア 「ちろろっ……セラ、休んでいる暇あるんですか？ ご主人様はまだイってませんよ？ れるっ……」

cha0299 ヤリ 「へっ……ううっ、あああっ、んっ、んっ、いいかげん、私の、中にっ……あああっ、あああっ……はあっ、はあっ、はあっ……んんうっ、あああっ！」

cha0252 ジスニア

「セラ？ 気を失って……ああ、幸せそうな顔……」

cha0253 ジスニア

「じゃあ、ご主人様、私がお掃除してあげますね。ちゅっ……れるうう……じゅっ、じゅば……んっ……ちゅばっ」

cha0254 ジスニア

「はあ……私があなたに墮とされていった日々が懐かしいです。私もセラのように最初は嫌がって……ちゅっ……れるうっ」

cha0255 ジスニア

「んう……でも、あなたに愛されて肉の悦びを覚えていき、今ではあなたなしでは生きられない身体になってしまった……。知っていますか？ 私はあなたを愛しています」

cha0256 ジスニア

「これが偽りの愛情だったとしても私は……んちゅっ、いいえ、こんな話どうでもいいですよ。もっと気持ちよくなりましょう」

cha0257 ジスニア

「ね、アイシャ？ 私の言ったとおり、良いものが見れたでしょう？」

cha0221 アイシャ

「……ああ……はあ、はあ……ああ……」

cha0258 ジスニア

「証拠として見せましたよ。セラ、ひどいことはされてなかったですよわっ」

cha0222 アイシャ

「されて、ない……すごく、気持ちよさそうだった……」

cha0259 ジスニア

「ありがとうございますアイシャ。あなたのおかげでセラも私も、優しく愛されているんです。感謝しかありません」

cha0260 ジスニア 「そんなアイシヤにお返し……プレゼントです。ご主人様に種付けプレスしてもらいましょう」

cha0223 アイシヤ 「ん……う……種付け……プレス……？」

cha0261 ジスニア 「すごく気持ちのいいセックスです。仰向けになって、足を思いっきり開いてください」

cha0224 アイシヤ 「うう？ ううなの？ はあ……はあ」

cha0262 ジスニア 「アイシヤったら、上からも下からもヨダレ垂らして……いけない人ですね」

cha0225 アイシヤ 「だってえ、きもちいいの、欲しいのおお……！ もおお、はやくちようだいっ………！ ああっ、あっ、ここに入れてええええ」

cha0226 アイシヤ 「ん、んあああっ、すごい、深い……奥まで、あああ……くるうっ、入ってくるのが丸見ええ……あああっ！ ああ……あ……」

cha0227 アイシヤ 「ああっ……うそっ、あああっ、もうイクっ！？ あああああっ！ んああああああああああっ！ あひっ、あっ、あああっ……」

cha0263 ジスニア 「もう、どれだけガマンしてたんですか？ だらしないイキ顔ですね」

cha0228 アイシヤ 「はあっ……はあっ、ああっ……あぐうっ……いきなり、いつちやっただ……あああ………」

cha0229 アイシヤ 「ひっ、いいいいっ、ああああっ奥だけええグリグリしないでえええあああっ、あっ、あ、あ、あ、やあああっ、またききやうぶうぶうぶうぶ」

cha0230 アイシヤ 「ああああああああああああっ……!」

cha0231 アイシヤ 「やあっ……あ……ああ……あひっあ、あ、あ……ああ……。はあ、はあ……もう、2回も入っちゃうなんて……あああ……」

cha0232 アイシヤ 「ああ……私ね……もっとうごうごうしてほくの……もっとう、もっとう欲しいのおお……あ、あやうう……」

cha0233 アイシヤ 「ひっ……あ……あ、そんなにゆっくり引き抜いて……ひ、い……んおおおおおっ
っ……奥まぶし一気に入っ……あああああ……」

cha0234 アイシヤ 「あ……ん……ああ……また、ゆっくり……んひひひひひっ……!」

cha0235 アイシヤ 「んあああっ、もうだめええっお願いいいい、パンパンしてええ! 激しく腰振ってえええっ!」

cha0236 アイシヤ 「あああっ、あうううっ、おっ、あっ……あああっ、んんっ! おちんぼっ、おちんぼがあっ、ズズズズするううっ、あああああっ!」

cha0237 アイシヤ 「あぐっうっ、私のおまんこの奥まぶしおちんぼ届くのっ! ああ、あ、あっ、しゅいっのっ、ああああっ、これ好きっ…… あおおっ!」

cha0238 アイシヤ

「ああいつ、ふあおつ、あ、あ、あつだめっイグッー！ まだ、まだイキたくないのっ！ このおちんぼまだ味わいたいのっ、あああつ、あ、お願い、キスしてえっ！」

cha0239 アイシヤ

「ふんむっ……じゅっ、ちゅっちゅ、ちゅううっ、れろっ、える、れるっ、ん、ふっ、ちゅうう……ちゅぼ、れろおっ……」

cha0240 アイシヤ

「ちゅっ……んっ、んんっ……ふむうっ……ちゅぼっ、れろっ、んあっ……ああ……はふ、ん……はあ、はあ……休憩できたあ……」

cha0241 アイシヤ

「ありがとう……、またいっぱい突いてっ。イキまくりたいの、あなたの精液も欲しいの！ んっ、んんっ、ああ、あ、あ、あつ、おちんぼきたっ、はあああんっ！」

cha0315 ヤラ

「っ……？ な、なに……？ っ、アイシヤ……！？」

cha0242 アイシヤ

「んんあああつ、あああつ、ふあああつ、んおおつ、ああっ、ぎもち、いいいいっ？ ふおおああつ、あつっ、ああうううっ、ふうううっ」

cha0316 ヤラ

「アイシヤ……あなた……」

cha0243 アイシヤ

「あっあ、ああっ、セラっ起きたのねっ？ あああっ……ふあああっセラ、見て、ああんっ、私がイクところ見てええええっ！」

cha0244 アイシヤ

「ひんっ、うっ、うんっ、あああつ、あっ、あ、あ、すっ……！ ああっあっ、ああああああふっ、んんんっ」

cha0266 ジスニア

「ほら、みんなで足を広げて、おまんこを主人様に見せて……ん、はあ、はあああ…
…」

cha0319 セラ

「ううっ……ねえ、こんな恥ずかしい格好してるんだからお願い……。も、もし先に入
れてくれたら、戦士団の他の女の子達も紹介するから」

cha0251 アイシヤ

「ああそれならあ、私は、毎日お料理作ったり身の回りのお世話するからあつ、お願
い、入れてちょうだい……！」

cha0267 ジスニア

「ういふ、ふふふ……。さあ、主人様、どのおまんこにおちんぽを入れますか
あ。」

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0252 アイシヤ (M) 「山賊との小競り合いが続いていた町、サントル。山賊の脅威がなくなったことよ
つて村は平和を取り戻し、これまで以上に活気づいている」

cha0253 アイシヤ (M) 「私たち戦士団の役割は何も変わらない。第二の脅威が現れたときに備えて、日々自ら
の腕を鍛え、町を守るように研鑽を続けていた」

cha0254 アイシヤ (M) 「そう、私たちの生活は何も変わっていない——」

【収録メモ】以上、モノログ終了です。

cha0250 セラ 「ふう、お疲れ様。今日の訓練も上々ね」

cha0258 ジスニア 「改善点があるので、そこは後ほど書面にまとめて提出します」

cha0321 セラ 「ありがとうございます。頼りにしてるわよ、副官」

cha0255 アイシヤ 「ねえねえ、時間があるならこれから3人で市場に行かない？」

cha0259 ジスニア 「私は、この後予定があるんです」

cha0322 セラ 「え、ああ……私もちよっと用事があるのよね」

cha0256 アイシヤ 「そっか、わかったわ。じゃあここで解散しましょうか」

cha0263 セラ

「ええ、また明日ね」

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0257 アイシヤ (M)

「女の勘と言うべきなのか、私はなんとなく違和感を覚え、家に帰るフリをしつつ後をつけていくことにした。どちらにしようか迷った結果、セラについて行く」

cha0258 アイシヤ (M)

「セラは執務室に向かうようだ。何かまだお仕事をするつもりなんだろうかと思った矢先……ご主人様が、セラの後を追うように執務室へと行くのが見えた」

cha0259 アイシヤ (M)

「ああ……そういうことなのね。それなら、ウイルスにセラの帰りが遅くなると伝えるに行こうかしら……」

【収録メモ】以上、モノログ終了です。
ニ編集時に少し間を開ける。

cha0270 ジスニア

「ちゅぽっ……んっ、れるっ、んぢゅうっ、えるるっ……ちゅっぽちゅっぽ……んっ、んぢゅうっ……」

cha0271 ジスニア

「んあっ……、アイシヤ……どうして……」

cha0260 アイシヤ

「ジスニアこそ、セラとウイルスのおうちで何してるの？」

cha0272 ジスニア

「ウイルスのおちんぼ啜えるの……すっかり癖になってしまっ……れるおっ」

cha0261 アイシヤ

「ジスニアったら……。睡眠薬を飲ませてフェラチオと手コキなんて、いたずらが過ぎるわよっ。このこと、セラは知ってるの？」

cha0273 ジスニア 「んっ、んっ……内緒に決まってるじゃないですか。だからこそ、燃えるんですよ。んっ……あ、あっ、出そうですね」

cha0274 ジスニア 「んあむっ……じゅ、じゅっ、じゅるる、ん、んうっ……ちゅぽぽっ、じゅうう、んんんんんっ……ー」

(射精)

cha0275 ジスニア 「んんんうう……んううえうっ……わあ、こんなにたくさん出ました。手のひらから」
ぽれ落ちそうです。アイシヤ、ウィルの精液味わってみますか？」

cha0262 アイシヤ 「ええ、弟の精液なんて……いいのかしら？」

cha0276 ジスニア 「いいじゃないですか、弟でも男は男なんだから」

cha0263 アイシヤ 「そうねえ……じゃあ……ん、んん……くっ。ああ、男の人のってやっぱりおいしいわねえ」

cha0277 ジスニア 「じゅるっ、んくっ……くっ。はあ……これを味わうと興奮してきます……ああ、主人様のも飲みたい」

cha0264 アイシヤ 「ご主人様は、執務室でセラとエッチしてるみたいよ」

cha0278 ジスニア 「セラの用事って、そういうことだったんですね、うらやましい……。いけない、ウィルが起きてしまうかもしれません、そろそろ行きましょっ」

cha0265 アイシヤ 「せっかくだからうちに来てお茶していけばっ」

≡ 編集時に間を開ける。

cha0279 ジスニア

「いいですね、ぜひお邪魔します。じゃあウィル、また今度」

cha0280 ジスニア

「くっ……はぁ……。この紅茶、おいしいです」

cha0286 アイシヤ

「ご主人様がプレゼントしてくれた紅茶なの。あの人ほんとセンスあるわ〜」

cha0281 ジスニア

「私はこの間、大好きなお花をもらいました。男性としてどこまでも魅力的な人ですよ
ね……幸せです」

cha0267 アイシヤ

「そうだと、戦士団の子、次は誰をご主人様に紹介する？ 最近入った巨乳の子なんていいと思わない？」

cha0262 ジスニア

「ああ、あの子ですね。……私、あんまりおっぱいが大きくないから、あの子が気に入られると私、捨てられてしまうかもしれません」

cha0268 アイシヤ

「ジスニアったらほんとに心配性なんだから。そこがあなたの可愛いところだけど」

cha0269 アイシヤ

「どんな子を紹介しても、私たちに対する愛は変わらないわ。それに、昨日の夜だってあなた愛されてたじゃない？」

cha0283 ジスニア

「あふっ……。そげですよね……。ありがとうございます、アイシヤ」

cha0270 アイシヤ

「ところで、昨日はどんな体位でしたの？」

cha0284 ジスニア 「バックで獣のように犯されました。そういう風にしてくださいっておねだりしちゃったんです。アイシヤはこの前どんな体位をおねだりしたんですか？」

cha0271 アイシヤ 「種付けプレスしてもらっちゃった。えへへ」

cha0285 ジスニア 「アイシヤ、ほんとに種付けプレス好きですね」

cha0272 アイシヤ 「うん、ハマっちゃって。奥までグングン来るのが好きなの」

cha0286 ジスニア 「ああ……ご主人様のおちんぽをしゃぶりながら、オナニーしたあい……」

cha0273 アイシヤ 「ジスニアったら、へ・ん・タ・イさんっ」

cha0287 ジスニア 「淫乱デカ乳女に言われたくないですよ」

cha0274 アイシヤ 「やだーもう！ むふふっ」

cha0288 ジスニア 「くすくすっ……」

cha0275 アイシヤ 「私ねえ、最近避妊薬飲むのやめようになって思ってるのよね」

cha0289 ジスニア 「え、赤ちゃんできてもいいんですか？」

cha0276 アイシヤ 「だってー、主人様との子供、絶対かわいいもの。せっかく種付けプレスしてもらってるし。ああでも、どうせなら3人で身ごもって産みたいわね」

cha0290 ジスニア

「いいですね！ ああ、でも……セラにはウィルがいましたね」

cha0277 マイシヤ

「あの二人、まだ身体の関係ないんでしょう？」

cha0291 ジスニア

「はい、あいかわらず結婚式を挙げるまではしないらしいので……」

cha0278 アイシヤ

「ウィルがプロポーズして随分経つけど、まだ挙げないのかしら……結婚式、楽しみにしてるんだけどなあ」

cha0292 ジスニア

「その時は、盛大にお祝いしてあげたいですね」

cha0279 マイシヤ

「そうね〜」

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0280 アイシヤ (M)

「そう、私たちの生活は何もかわっていない。平和な町で、幸せな日々を送っている――」

ニ音声編集時の間

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0324 セラ (M)

「私は、二人に用事があると言って分かれた後、一人執務室へ向かう。いつからだろう、薬の副作用以上に私を突き動かすものがあると気づいたのは」

cha0325 セラ (M)

「ウィルという時は心が満たされる。でも、あの人という時は、すべてが満たされる。心も、身体も、魂でさえも……。この感覚が、幻だったとしても私はかまわない」

【収録メモ】以上、モノログ終了です。

cha0326 セラ 「もうそろそろ、あの人来てくれるかしら……」

cha0327 ヤリ 「あら、いらっしやい！ こんな時間にどうしたのよ。もしかして仕事、手伝いに来てくれたの？ なんてね」

cha0328 セラ 「この前紹介した戦士団の女の子どうだった？ 私たちの見立てでは、すごくエッチな才能がある子だと思ったんだけど……。ふふふ、ご満足いただけただけで何よりだわ」

cha0329 セラ 「武術の指南役として雇われたあなたにかわいがられるんだから、あの子たちも幸せよね」

cha0330 セラ 「何か飲む？ 紅茶？ ミルクかレモンは？ わかったわ」

cha0331 セラ 「でもまさかこの私があなただに、剣の競い合いで負けるだなんて、ほんとに驚いたわ。それだけの強さ、どうやって手に入れたの？」

cha0332 セラ 「……経験、ね。私ももっと強くなれるかしら。……ふふふ、そうね。あなたがいるんだもの、きつと強くなれるわ。頑張ろうと♪ きゃっ……な、なに？」

cha0333 セラ 「今日もまた」(こ)ですの……？ だっっておどろいも」(こ)は、いいけど」

cha0334 セラ 「んんっ……はあ……あなたの指ってほんと、最高お……はあ、んっ……ああっ……ああっ……きもち、いいっ……」

cha0335 セラ 「はあ、あ……ああっ、あなたが部屋に入ってきた時から……おまんこひくひくしてたのっ……ああっ……あっ、ん、んんっ……ふ、ああっあ、あん、んんんあっ……」

【収録メモ】次の文章のみ、モノログでお願いします。

cha0344 ヤリ (M) 「しゃぶるのは初めてだけど、わかる。どうしたらこの人が気持ちよくなるか……」

cha0345 ヤリ 「ちゅっ……んっ、ここが弱いんでしょお？ れっっ……ちゅっちゅっ……
んっ、びっくちゅっ……もっとしてあげるわね。じゅっ、じゅっ

【収録メモ】次の文章のみ、モノログでお願いします。

cha0346 ヤリ (M) 「ロで奉仕するアイシヤとジヌニアを見て……ずっとなんかやましく思っ
たから」

cha0347 ヤリ 「じゅっ、じゅっ、んんっ、……ちゅっ、ちゅっ、れっ、
んっ、ふっ、んっ……ちゅっ、ちゅっ、……」

cha0348 ヤリ 「んっ、ちゅっ……んっ、ちゅっ……んっ……んっ……これが、精液の味
ら……はぁ、はぁ……おいし……」

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0349 ヤリ (M) 「ああウィル……ごめんね。私とうとう、口まで挿げちゃった」

cha0350 ヤリ (M) 「でもウィル、私約束する。結婚式を挙げたら、もう「んん」とはおしまいにする
ら。……だから、式を挙げるのは、もう少し待ってね」

【収録メモ】以上、モノログ終了です。

cha0351 セリ

「ねえ、約束よ？ 今日是一日中、私だけを愛してくれるのよね？ ああ……まずは何をしてくれるの？ 後ろから？ それとも私が跨がって腰を振る？」

cha0352 セリ

「密^ニ際^ニ、誰かに見えちゃいそうなのころですものもいいわね……。はあ、はあ……ああ……楽しみい……！」

cha0353 セリ

「あっ……！ ああああっ、太いおちんぼ、入ってきたああああっ、あ、あ、あああああああああああ……！」

【収録メモ】以下、モノログでお願いします。

cha0354 セリ (M)

「私……す……く……幸……せ……！」